

英國憲法史

第六卷

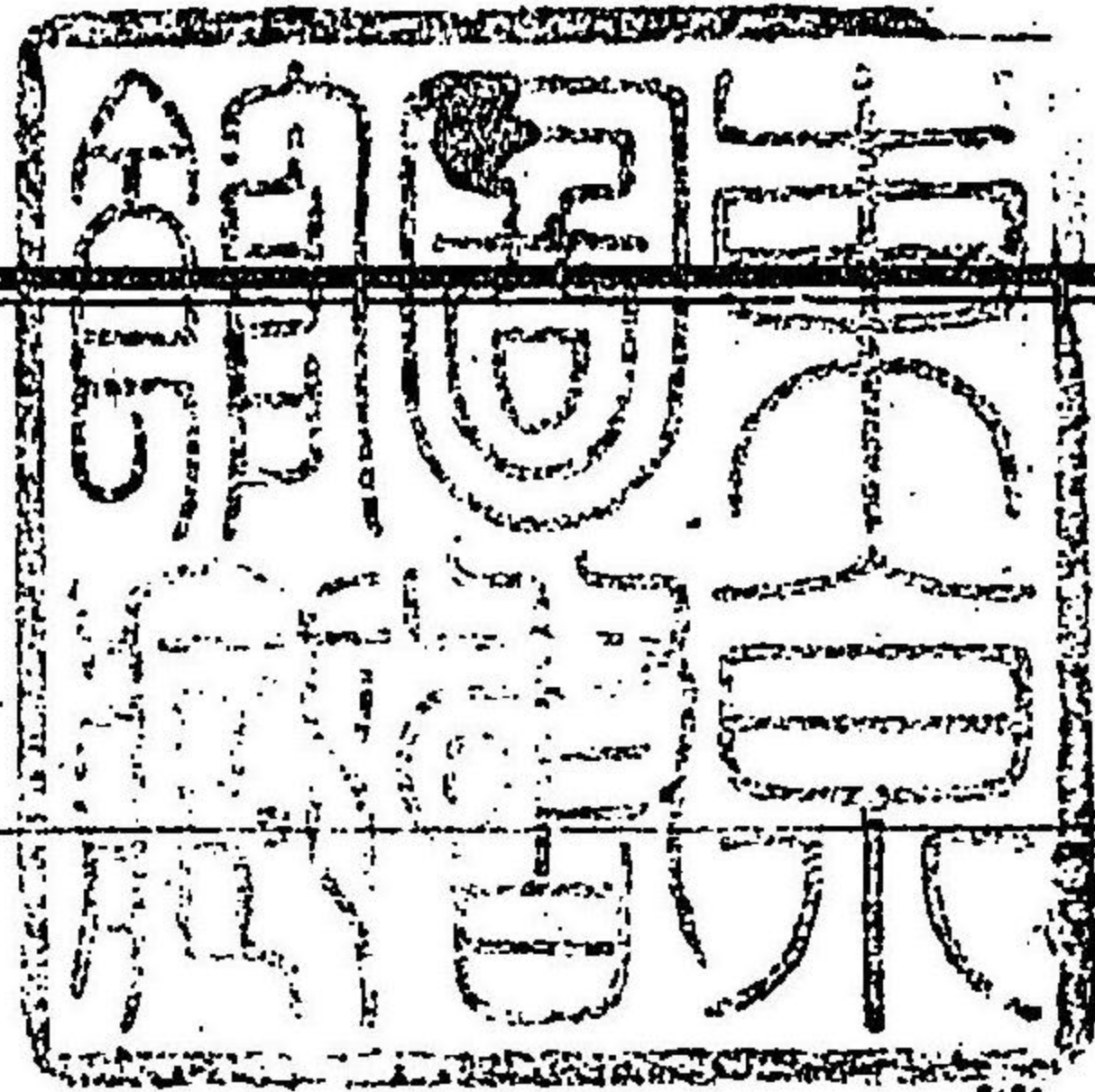
英國 マ 原著

日本 同譯

島田三郎
乘竹孝太郎

東京 輿論社發賣

No 6109



英國憲法史第六卷

第九篇

言論ノ自由ハ自由ノ最モ大ナル者タルヲ且之ヲ得
 ルノ最モ遅カリシヲ○出版監査ノ行ハレシ時代及
 ヒ爾後ノ出版ノ有様○ジョージ三世即位ノ初年ニ
 於タル政府ト出版トノ爭論○ウィルクス及ヒジュニアス
 ○陪審官ノ權利○ファックス氏ノ讒謗律○公會結社
 及ヒ政治上ノ激動○一千七百六十年ヨリ同九十二
 年ニ至ルマデ言論自由ノ進歩ノ有様○佛國ニ革命
 ノ行レ英國ニ共和主義ノ行レシ爲メ言論ノ自由ニ
 反動ヲ及ボセシコ○一千七百九十二年ヨリ同九十



エルスキン、メー 原著
 島田三郎 合譯
 乘竹孝太郎

九年ニ至ルマデノ言論抑壓ノ政畧〇攝政太子ノ時
ニ至ルマデノ出版ノ有様

言論ノ自由ハ
自由ノ最モ大
ナル者タルコト

言論ノ自由ハ
最後ニ承認セ
ラレシコト

今ヤ余ハ吾人ノ自由ノ最モ大ナル者即チ言論ノ自由ヲ論
記ス可キノ場合ニ達シタリ即チ本篇ニ於テハ政治上ノ言
論ノ發達セシコト言論ト權力ト相争ヒシコト言論ノ抑壓檢束
セラレシコト言論ノ漸次ニ勢力ヲ得テ法律及ヒ主治者ヲ壓
倒シ遂ニ自由人民ノ明斷エンライアランド、ジャッソクメットガ國家ヲ支配スルノ法律トナ
ルニ至リシコトヲ逐一考查論述セザル可ラス
被治者ニ於テ害惡ヲ愁訴スヘキ十分ノ自由ヲ有シ主治者
ニ於テ其愁訴ニ應シテ速ニ害惡ヲ匡正セントスルハ是レ
即チ自由政體ノ至義至善ノ位置ニ達シタル所ノ有様ナリ
各時代ノ學者及ヒ政治家ハ常ニ言論ノ自由ヲ主張セサル

ナシト雖モ有識者ヲシテ此自由ヲ頌贊シテ措ク能ハザラ
シメタル由縁ハ即チ主治者ヲシテ此自由ヲ厭惡スルノ情
ニ堪ヘザラシムル所以ナリエルスキノ公曾テ言ヘルアリ
曰ク他ノ自由ハ政府ノ下ニ在リテ之ヲ享有スル者ナリト
雖モ獨リ言論ノ自由ハ政府ヲシテ其義務ニ服從セシムル
ノ具トナル者ナリ是レ言論ノ自由ヲ唱ヘ正理ノ爲メニ命
ヲ失ヒシ者古今ニ之アリシ所以ニシテ此等ノ人々ハ世界
ノ文運ヲ進メ毫モ罪ナクシテ刑戮ニ處セラレ其ノ流血ヲ
以テ始メテ世界ニ浸染セル蒙昧ノ蠻風ヲ洗滌シタル者ナ
リト蓋シ至言ト謂フ可シ例ヘバ國敎寺院ハ宗敎ニ關シテ
思想ノ自由ヲ酷待シ政府ハ政治ニ關シテ思想ノ自由ヲ抑
制シ何レノ場合ニ於テモ有權者ハ其支配權ノ仇敵ナリト

出版監査

シテ言論ノ自由ヲ厭惡セザルハナキナリ之ヲ要スルニ他
 ノ點ニ關シテハ夙ニ自由ノ行ハル、邦國ニ於テモ獨リ言
 論ノ自由ニ至リテハ人民ノ之ヲ享有スルコト最モ遲キハ則
 チ之ガ爲メナルノミ
 出版ノ術漸ク行ハレテ思想ヲ發達セシメ言論ノ手段ヲ增
 加スルニ從ヒ嚴密ナル監査ヲ施シテ之ヲ檢束セシコトハ歐
 洲各國皆然ラザルハナシ國教寺院ニ於テハ率先シテ人ノ
 思想及ビ知識トノ境域ヲ畫シ之ヲ踰越セサラシメント勉
 メ次キニ政府モ亦自ラ任シテ此事ヲ務ムルニ至レリ即チ
 出版監査官ノ免許ヲ得ズンバ如何ナル文書ヲモ刊行スル
 コトヲ禁シ若シ免許ヲ經ズシテ之ヲ刊行スル者アルハ之
 ヲ非常ノ嚴罰ニ處シタリキ

論篇、小冊子
及ヒ新聞紙

英國ニ於テハ監査ヲ經テ免許ヲ得タル者ノ外一切ノ文書
 ヲ公刊スルコトヲ禁スルノ權ヲ最初國教寺院ニ於テ行ヒタ
 リシガ宗教改革後ハ國王自ラ此權ヲ行フニ至レリ即チ出
 版ヲ監査スルコトハ國王特權ノ一部トナリ且出版ニ關シテ
 特許及ヒ專賣權ヲ與フルコトノ行レシヲ以テ爲メニ出版自
 由ハ更ニ抑壓セラレタリ蓋シ女王エリザベスガ倫敦、オキ
 ス、フ、オ、ド、ケ、ム、ブリッヂヲ除クノ外其他ノ場所ニ於テ文書ヲ
 公刊スルコトヲ禁シタルガ如キハ其一例ナリ
 然レモ人心既ニ發憤シタレバ又之ヲ檢束シテ無學ト昏迷
 トニ甘從セシムルコト能ハザルナリ即チ世人ハ大ニ知識ヲ
 渴望シ而シテ其容易ニ壓シ得ベカラザル出版ノ機關ニ由
 テ此渴望ヲ満足セシムルコトヲ得タリ十六世紀ニ於テ起リ

「スチユアード」
家諸王ノ時代
ニ於ケル出版
ノ有様

タル神學上ノ爭論ト十七世紀ニ於テ現ハレタル政治上ノ
軋轢トハ全ク文學ノ面目ヲ一新シ最初ハ學者ノ閱讀ス可
キ浩瀚ナル書籍行ハレタリシガ尋テ衆人ノ理解シ得ヘキ
論篇小冊子行ハレ其ノ定時ニ刊行セラル、モノハ遂ニ新
聞紙躰ニ變形スルニ至レリ
新聞紙ノ初メテ世ニ起リシハゼームス一世在位ノ晩年即
チ最モ出版ニ不幸ナル時代ナリ當時出版監査官ノ嚴酷ナ
ル「スター、チャムバー」法院ノ殘刻ナル或ハ出版者ヲ牢獄ニ繋
キ或ハ之ニ負枷ヲ施シ或ハ之ヲ殘害シ或ハ身躰ニ烙印ス
ル等ノ慘刑ヲ行ヒ以テ政治上ノ言論ヲ抑壓セリ「スチユア
ード」家ノ最初ノ二王ガ著述者出版者及ヒ禁制セラレタル書
籍ノ輸入者等ニ對シテ野蠻ナル嚴罰ヲ施セシ「ノ如ク其

共和政治ノ時
代ニ於ケル出
版ノ有様

壓制心ヲ最モ明瞭ニ證スルノ事實ナク人民ガ此等ノ嚴罰
ヲモ恐レズ斷乎トシテ其說ヲ守リ其志操ヲ枉ケザリシ「
ノ如ク自由ヲ愛スルノ熱心ヲ最モ明瞭ニ證ス可キノ事實
アルヲ知ラザルナリ
「スター、チャムバー」法院ノ廢セラレタル「一千六百四十」ハ將
來出版ノ自由進歩スヘキノ前兆ヲ示シタル者ナリ蓋シ當
時國王ト議院トノ間ニ起リシ大爭鬭ノ爲メニ社會人民ノ
火ノ如キ思想ト情慾トハ全ク政治上ノ議論ニ集リ論篇及
新聞紙ハ奮テ此事件ヲ切論スルニ至レリ然ルニ議院ハ自
黨ノ機關トシテ出版ヲ使用シタリト雖モ毫モ出版ノ自由
ヲ容忍スル「ナク嚴重ナル達示及ビ條例ヲ出シテ之ヲ檢
束シ以テ勤王派記者輩ノ口ヲ鉗セント勉メタリ「蓋シ兩黨

相争フニ當リテ敵黨ノ武器ヲ破毀スルヲ欲スルハ固ヨリ
 人情ノ然ルベキ所ナリ然ルニ詩人シヨン、ミルトンノ如キ
 ハ流石ニ區々タル黨派ノ争鬪外ニ獨立シ正理ノ存スル所
 ニ着目シテ出版監査官ガ出版ノ自由ヲ檢束スルヲ嘲譏
 シテ曰ク是レ有命的ノ者ヲ殺サントスルニ非スシテ不死
 不滅的ノ者ヲ殺サントスル者ナリト

王政復古後ノ
 出版ノ有様

共和政治亡ビテチャーレス二世王位ニ復スルニ及ヒ再ヒ從
 前ノ如クニ出版ヲ監査シ出版條例ナル者ヲ設ケテ其ノ監
 査ノ全權ヲ政府ノ掌中ニ握レリ此條例ハ女王エリザベス
 ノ狹隘ナル精神ニ働ヒ倫敦ヨリク及ヒ諸大學校ヲ除クノ
 外其他ノ場所ニ於テ文書ヲ出版スルヲ禁シ且出版者ノ
 數ヲ二十人ニ限レリ而シテ恐ルベキ復讐心ヲ以テ此條例

ノ嚴刻ナル箇條ヲ應用シ其有害ナリト認メラレタル文書
 ノ記者及ヒ出版者ハ裁判官ノ寬嚴如何ニ因リ或ハ之ヲ絞
 罪ニ處シ或ハ之ヲ四裂ノ刑ニ處シ或ハ殘害シ或ハ負枷ヲ
 施シ或ハ衆人ノ前ニ於テ鞭打シ或ハ罰金ヲ課シ牢獄ニ投
 シ且ツ其文書ハ絞罪手ヲシテ之ヲ燒カシメタリ此ノ如ク
 ニシテ言論ノ自由ハ全ク蹂躪セラレ新聞紙ノ如キスラ免
 許ヲ經ズシテ之ヲ刊行スルヲ能ハザリシ加之出版條例ノ
 一時中廢セラレシ間ト雖ヒ判事長スコロツグス氏以下十
 二名ノ判事ハ國王ノ免許ヲ經ズシテ新聞紙ヲ公刊スルハ
 其記事適實ナルト誣罔ナルトニ拘ラス習慣法ニ照シテ悉
 ク有罪トナサル可ラズトノ說ヲ公言セルノミカ此奇怪
 ナル妄說ハ夫ノ明法官カムデン卿ノ出ルニ至ルマデハ裁

一千六百九十
五年出版條例
廢セラレシコ
言論ノ自由ノ

判上ニ於テ之ヲ怪ム者アラザリキ又新聞紙ニ專賣ノ制ヲ
創定セシヲ以テ世人ハ「ロンドン」ガゼットト稱スル官報ニ
依ルノ外ハ他ニ知識ヲ求ムルノ道ナク出版ハ抑壓セラレ
テ品位ヲ失ヒ唯猥醜ノ事ノミヲ記スルニ至レリゼームス
二世及ビ之ニ從屬セル廉耻ナキ裁判官等ハ酷薄ニモ出版
條例ヲ嚴行シテ毫モ寬假スル所アラズ然レモ一千六百八
十八年ノ革命ノ爲メニ言論ノ自由漸ク行レ夫ノ共和政府
ヲ覆ヘサント謀ル所ノゼームス黨ノ人々ト雖モ自由ニ其
說ヲ公刊シ得ルニ至レリ而シテ爾後數年ニシテ下院ハ出
版條例再興ノ議ヲ拒ミシヲ以テ出版監査ノコトハ長ク英國
法律中ヨリ一掃シ去ラレタリ
爾後言論ノ自由ハ理論上ニ於テ公認セラレ如何ナル文書

論上ニ於テ公
認セラレシコ

ト雖モ自由ニ之ヲ公刊スルヲ得ルコトナリシト雖モ尙ホ
讒謗律ノ嚴行セラル、アルヲ以テ動モスレバ刑辟ニ觸ル
、ノ危險ヲ免レザリキ裁判ノ執行法ハ實ニ改良セシニ相
違ナクスコロツグス及ビゼツフレ一等ノ如キ破廉耻ナル
裁判官ハ最早存在セザリシト雖モ尙ホ讒謗律ニ關シテハ
明確ナル解釋ナクウエストミンスター法院ニ於テハ「スター
チヤムバー」法院ニ行レタル慣例ヲ取リテ以テ其定規トナセ
リ左レバ政府ヲ非議スルコトヲ以テ犯罪トナシ宰相ヲ難責
スルハ直ニ國王ヲ難責スル者ナリトナセリ故ニ自由言論
ノ第一目的タル政府ノ非ヲ論スルコトハ法律ノ禁止スル所
トナレリ然レモ出版一タヒ監査官ノ束縛ヲ免ル、ヤ早ク
既ニ將來ニ勢力ヲ逞クス可キ好況ヲ豫示シ新聞紙ノ數大

女王アーン時
代ノ出版ノ有
様

ニ増加シテ珍談奇聞ハ自由ニ民間ニ流通スルニ至レリ
 女王アーンノ時代ハ出版歴史上ニ一世紀ヲ開キタル者
 ト云フヘシ新聞紙ハ始メテ現今ノ躰ヲ備ヘ政治上ノ論說
 ニ交ユルニ事實ノ報道ヲ以テシ且ツ日々之ヲ刊行スルニ
 至リ又定時刊行ノ雜誌書冊ハ此文學最盛期ニ輩出セル第
 一流ノ俊才アツデノンズチール、スウ、フト、ボリング、ブロー、ク
 ノ諸氏之ニ從事シテ其高尚優雅ナルヲ以テ稱セラレ新聞
 紙及ヒ政論ヲ愛讀スルノ風ハ民間ニ普及シ人トシテ政治
 家タラザルハナク黨派トシテ秀俊ナル記者ヲ有セザルハ
 ナカリキ是ニ於テ乎出版ノ勢力大ニ増加シタリト雖ヒ其
 黨派ノ機關トナリシカ故ニ幾分カ之カ品位ヲ下シ爲メニ
 言論ノ自由ヲ確立スルノ期ヲ遲延セシメタリ蓋黨派ノ相

出版ヲ以テ黨

派ノ機關トセ
シ

怨恨スルカ爲メニ往々罵詈惡口ノ弊ヲ生シ從來ハ主治者
 ト出版トノ戰爭ナリシモノ今ハ變シテ黨派ト出版トノ戰
 爭トナレリ即チ諸黨派ノ記者等ハ互ニ其政敵ノ猛烈ナル
 復讐ヲモ顧ミス敢テ之ヲ嘲誚罵詈スル所アリ而シテ此等
 ノ記者ハ皆法廷及ヒ議院ノ寬赦ヲ受クルヲ期シ得ヘカ
 ラスシテ權力アル黨派ノ忿怒ニ觸ル、如キノ說ヲ爲ス者
 ハ悉ク讒謗ノ罪ヲ犯シタリトシテ罰セラレ下院ノ如キモ
 公衆ノ自由ヲ保護セザルノミナラズ其讒謗者ヲ罰スルコ
 ニ熱心ナルニ至リテハ「スター、チャム、バー」法院ニ讓ラザル者
 アリ實ニ下院ハ說教ヲ非難シ講僧ヲ譴責シ或ハ議員ヲ斥
 除シ新聞記者ヲ責罰シ又ハ出版書冊ヲ燒キテ毫モ假借ス
 ル所アラズ而シテ社會ノ形勞ハ從前ト一般更ニ容忍ノ風ア

一千七百十二年始メテ新聞紙等ニ印紙稅ヲ課セシメ

ルイナシ蓋シ前代ニ於テハダイエルハ議長ノ爲メニ警戒ヲ受ケモハン公ノ爲メニ咖啡店ニ於テ打撃セラレシガ當代ニ於テモタツチンハ下院及ヒ大檢事ヲ輕蔑セシノ故ヲ以テ道ニ要セラレテ打殺スル所トナレリ實ニ出版ヲ惡ムノ情甚シクシテ出版監査條例ヲ再設セントノ議ヲ提出セシ者アルニ至レリ當時ノ世運既ニ進ミテ再ヒ斯カル政略ヲ復スルガ如キハ固ヨリ能ハザル所ナリト雖ヒ讒謗ヲ禁遏セントノ目的ヲ以テ新聞紙及ヒ廣告ニ印紙稅ヲ課スルノ新政略ヲ行フニ至レリ此政略ハ其結果トシテ廉價ナル新聞紙ノ流通ヲ抑制セシヲ以テ次ノ二代ニ於テ之ヲ改良セシガ今日ニ於テモ有益ノ法律ナリトシテ依然行ハルナリ

ジョージ一世及二世ノ時代ニ於ケル出版ノ有様

ジョージ一世及ヒ同二世ノ時代ニ於テモ出版ノ勢力及ヒ性質ハ尙ホ著キ進歩ヲ現ハサス當時學者及ヒ詩人ニハボープ、ジョンソン、ゴールドスミス、ヒューム、ロバートソン、ステルン、グレー、フギルヂング、スモルレットノ諸氏アリシヲ以テ決シテ文學ノ歷史上ニ於テ下位ヲ占ムベキ時代トハ爲ス可ラスト雖ヒ政治上ノ言論ニ至テハ尙ホ未タ盛ナリト云フ可ラザルノミナラズ前代ニ比スレバ更ニ衰頽シテ唯黨派ノ情慾ト怨恨トヲ表言スルヲ事トセリ左レバ政治家ハ其敵黨ナル競争者ノ處置ヲ非難シ其私德ヲ摘發セシメンガ爲メニ文墨ノ士ヲ招聘シ此等ノ文士ハ毫モ人民ノ知識ヲ進ムルヲ勉メズ全身ノ力ヲ以テ其雇主ニ奉シ只管此最モ狹隘ナル黨派ノ利益ヲ進ムルノミヲ事トセリ斯ノ如ク

卑劣ナル詭計ニ從事セシテ以テ其餘響文學ニ及ビ世人ヲシテ之ヲ蔑視セシムルニ至レリ
 出版ハ常ニ黨派ノ機關タリシヲ以テ政府黨ノ爲メニ多少ノ抑壓ヲ受ケザルヲ得ザリシト雖ヒ夫ノゼームス黨ノ新聞記者ガ當ニ心ヲ當時ノ王室ニ歸セザルノミナラズ公然「スチュアート」家ノ復位ヲ主張セシ時ヲ除クノ外ハ樂シテ寛大ノ待遇ヲ受ケタリト云フベシ當時ノ宰相ロバート、ウヰルポール氏ハ人ト爲リ温和寛大ニシテ且ツ讀書者流ニアラサルヲ以テ出版ノ攻撃ノ如キハ更ニ之ニ頓着セス各政黨記者ノ卑劣ナルヲ公言シテ常ニ之ヲ賤蔑セリ又過激ニシテ忿怒シ易キ他ノ諸宰相ノ如キハ遲々タル法律ノ方便ニ依ラズシテ自黨ノ記者ヲシテ一層甚シキ罵詈ヲ爲サシメ

シヨージ三世
 即位ノ時ニ於
 ケル出版ノ有
 様

以テ其ノ復讐心ヲ満足セシメタリ
 シヨージ三世ノ即位ニ當リテ出版ノ有様以上述アルガ如クナリシナリ即チ出版ハ黨派ノ機關トナリテ賤役ニ服シ記者ハ卑劣ニシテ世人ノ爲メニ輕蔑セラレシト雖ヒ尙ホ其出版ノ政治上ニ勢力アルコトハ世ノ公認スル所ナリ蓋シ新聞雜誌ヲ講讀スル者日ニ益々増加スルニ至ラバ此等ノ讀者ハ心ヲ政治ニ傾ケ且ツ黨派心ト人民ノ刺衝トノ爲メニ激セラル、者ナレハ勢ヒ新聞雜誌ハ宰相ノ爲メニハ有カナル友トナリ又恐懼スベキノ敵トナラザルヲ得ザルナリスモルレツト氏言ヘルアリ曰ク數回内閣ニ列セシ所ノ一貴紳ハ才幹アル一記者ノ政府ノ爲メニ利益アルハ二十人ノ下院議員ニ優ルアルコト余ニ語リタリト實ニ黨派ノ

爭論ニ於テ援兵トシテ出版ノ大勢力アルトハ既ニ著明ナ
 ルニ至レリ是ヨリハ出版ノ品位ヲ高尙ニシ黨派ノ機關ト
 ナラズシテ民權ノ機關トナリ以テ公議輿論ヲ表明セシム
 ルト必要ナリ而シテジョージ三世即位ノ後言論ノ自由俄
 ニ發達シ古來未曾有ノ進歩ヲ現ハセリ左レバ數年ナラズ
 シテ人民ハ活潑不屈ナル出版公會及ビ政治結社等ノ手段
 ニ依リテ能ク主治者ヲ管制スルトトハナレリ

ウィルクス及
 ヒノルス、ブリ
 トン新聞

是ニ於テカ政府ハ直チニ出版ト戦争ヲ始メタリ而シテビ
 トト公ハ出版ノ勢力強大ナルトテ第一ニ世ニ證明シタル
 ノ人ナリ即チ公ハ誹謗ト嘲弄トノ爲メニ壓倒セラレ遂ニ
 膝ヲ屈シテ其軍門ニ降り僅カニ其攻撃ヲ免レタリ公ハ法
 律ノ力ヲ以テ出版ヲ抑壓セシトテ計畫セス然レモ公ガ恩

顧ノ記者ハ公ノ防禦ニ努力シ國王モ亦其寵臣タル公ヲ保
 護スルニ熱心セシト雖モ少シモ其効アラズシテ此不人望
 ナル宰相ハ一陣ノ風ノ爲メニ吹キ去ラレタリ而シテ其ノ
 後ト雖トモ出版ノ暴風尙ホ怒號シテ止マラズ就中最モ公
 チ痛撃セシハノルス、ブリトン新聞ニシテ此ノ新聞ハ彼ノ
 ウィルクス之ヲ管理セシ者ナルガ氏ハ其後モ新宰相グラソ
 ウィル氏及宮廷ニ對シテ痛撃ヲ止ムルヲ欲セザリシナリ
 従前新聞雜誌ノ官吏ヲ刺譏誹謗スル者ハ幾分カ言辭ヲ裝
 ヒテ暗ニ諷刺ヲ寓スルノ習例ナリシニノルス、ブリトン新
 聞ニ至テハ直ニ官吏ノ實名ヲ明記シテ公然之ヲ痛撃セリ
 抑言辭ヲ裝テ實名ヲ隱蔽セントスルガ如キハ言論ノ自由
 及公平ト兩立ス可ラザルトナリ又世ノ記者ハ法律上ノ刑

罰ヲ畏怖シテ事實ヲ明記スルノ責任ヲ避ケリ夫レ事實ト
 公明トハ常ニ相離ル可ラザル者ナリ故ニ實名ヲ明記スル
 一ハ政治上ノ言論ヲ發達セシムルニ最モ緊要ナルモノト
 ス然ルニ言辭ヲ裝フテ事實ヲ明記セサルノ惡習慣尙ホ新
 聞雜誌上ニ行ハレシテ以テ粗暴ナル罵詈及誹毀ヲ爲スノ
 弊ニ加フルニ讒謗者ノ爲メニ公然讒毀セラレテ非常ノ凌
 辱ヲ蒙ルモノアルノ弊害ヲ生出スルニ至レリ

「ノルス、ブリト
 ノ新聞ノ第四
 十五號」
 一千七百六十三年四月二十三日ニ於テ議院延會ノ時國王
 ノ下シタル勅詞ヲ批評シ且ツ義ニ政府ガ佛國ト締結シタ
 ル不人望ナル平和條約ヲ非難セシ所ノ夫ノ有名ナル「ノル
 ス、ブリト」新聞ノ第四十五號世ニ出テタリ宮廷ニ於テハ
 直ニ該新聞ノ記事ヲ目シテ故意ニ王ヲ凌辱スルモノナリ

ウイルクス氏
 ニ對スル處置

又不敬ノ讒謗ナリトシテ之ヲ非難シ當時政治上ノ爭論ニ
 與カラザル歴史家ハ都ヘテ同様ニ該新聞ヲ評シテ王ニ對
 シ不敬ノ讒謗ヲ爲ス者トセリ然レモ該新聞ハ如何ニ罵詈
 惡口ヲ逞フセシニモ拘ハラズ直ニ王ヲ讒謗セシニ非スシ
 テ寧ロ宰相ヲ讒謗セシ者タルコトハ疑フ可ラザルナリ即チ
 該新聞ハ宰相責任ニ當ルヘシト云ヘル憲法上ノ格言ヲ反
 覆再記シ王ノ勅詞ハ宰相ノ起草ニ係ルモノトシテ之ヲ論
 シタリ

當時法院ハ言論ノ自由ヲ保護セシトスルノ意志ナキニヤ
 ウイルクス氏ニ對シテ非常ノ處置ニ出テタリ即チウイルクス
 氏ハ果シテ王ヲ讒謗セシ者トスルモ上院ガ其位置ノ貴キ
 ナ忘レテ此事ニ干與シタルハ何故ゾヤ政黨員ガ主義ノ異

同ヲ忘レテ相共ニウルクス氏ヲ惡ミシハ何故ゾヤ宰相ガ
 賄賂ヲ行テ下院ノ賛成ヲ得ントシタルハ何故ゾヤウルク
 ス氏ハ通常ノ讒謗者ノ如クニ大檢事ノ手ヲ以テ之ヲ罰セ
 ズシテ王及ヒ上下兩院即チ國家ノ全力ヲ以テ之ヲ罰スル
 一ニ決セリ乃チ王ハ其ノ特權ヲ強張シ不指名ノ捕縛狀ヲ
 發シテ記者及ヒ出版者ヲ探索セシメ議院ハウルクス氏ニ
 對シテ怨恨ノ情ヲ漏サシガ爲メニ其特權ヲ濫用セリ而シ
 テウルクス氏ハ讒謗ノ罪アリトシテキングス、ベンチ法院
 ニ公訴セラレタリ而シテ該法院ハウルクス氏ニ向テ煽動
 及ヒ讒謗ノ文書ヲ印行シ且發兌シタル者ナリトノ判決ヲ
 下シ之ト同時ニ陪審官ハウルクス氏ノ婦女論ヲ醜猥ナル
 讒謗ナリト審斷セリ若シ法院ノ爲ス所之ノミニ止リシナ

ランニハウルクス氏モ敢テ之ニ抗セザルナルベシ然ルニ
 法院ハウルクス氏ヲ強壓セント欲シ其他不正不當ノ處置
 ニ出ル一多キヲ以テ人民ハ大ニ之ヲ怨ミ當ニ政府ヲ不正
 ナリトスルノミナラス併セテキングス、ベンチ法院ヲモ不
 正ナリトセリ而シテウルクス氏モ亦勞ヲ惜マズシテ該法
 院ノ不正ナル一ヲ誇張膨大スル一ニ力ヲ盡シタリ氏ハマ
 ノスフィールド公ガ氏ノ裁判ノ時ニ際シ其告訴狀ヲ修正スル
 ヲ得セシメタル一ヲ難シ又氏ノ從僕ニ賄賂ヲハ贈ハシメ
 テ其ノ婦女論ヲ得タルノ手段ヲ罵レリ而シテ氏ヲ法律保
 護ノ外ニ放擲セントノ議論起リシト氏ハ法院ヲ苦マシメ
 ン一ヲ勉メ爲メニ爾後六年間此訴訟事件ハ決セズシテ世
 上ノ問題トナリ且ツ人民ハ讒謗ノ事ニ關シテハ法院ノ處

一千七百六十
四年「ノルス、
リットン」新聞ノ
印刷者ニ係ル
事件

置ノ公平ナラザルヲ疑惑スルニ至リタリ實ニ政府及ヒ法
院ニ不正ノ處置アリシヲ見レハ人民ガ斯ル疑惑ヲ生セシ
ハ其當然ノ事ト云フ可シ
「ノルス、ブリットン」新聞ノ印刷者モ記者ト同シク刑ニ處セラ
レタリ而シテ政府ハ此等ノ訴訟ニ於テ勝テ得タルヲ以テ
他ノ印刷者ニ對シテモ嚴刻ナル處置ニ出テ曾テ假借スル
所アラズ即チ法院ハ大檢事ト被告入トノ間ニ大陪審官ヲ
用ヒテ罪ノ有無ヲ斷セシムルヲ爲サシテ法院ハ恰モ
法律ヲ執行スルニ於テ政府ノ意ヲ奉スルノ機關タルニ過
キス蓋シ斯ノ如ク嚴刻ナル處置ニ出テシガ爲メニ讒謗文
書ノ出版ヲ禁遏スルノ効アリシヤ否ヤハ姑ク之ヲ措キ之
ガ爲メニ人民ヲシテ被告者ヲ憐愛スルノ情ヲ起サシメタ

權外公訴ノ事
及ヒ之ニ關ス
ルカルバート
氏ノ一千七百
六十五年三月
四日ノ動議

リウリアム氏ハ「ノルス、ブリットン」新聞ヲ再版シタル人ニシ
テ自ラ負枷ノ刑ニ處セラレシキ「第四十五號」ト記シタル馬
車ニ乘リテ刑場ニ到レリ然ルニ刑場ノ近邊ニ於テ群民ハ
一ノ刑臺ヲ築キ此上ニ於テ長靴及ヒ蘇格蘭風ノ女帽ヲ燒
キ又ウリアム氏ノ爲メニ義捐金ヲ募リシニ其額二百磅ニ
達シタリ(按)長靴及ヒ女帽ハ「ビニート」公ト
ウエールス妃トニ譬ヘタルナリ
當時權外公訴ノ事類ニ行ハレケレバ遂ニ議院ノ注意ヲ喚
起スル所トナリニ「ノルス、カルバート」氏ハ此ノ公訴ヲ廢
スルノ議案ヲ出セリ氏ハ權外公訴ノ事ハ原ト「スター、チャム
バー」法院ノ習例ニ因テ起リシ者タルヲテ説キ大陪審官ノ
豫審ヲ經ズシテ直ニ裁判ヲ開クノ非ナルヲ述ヘ此事ハ
我法律全體ノ趣意ニ背戾セリト論シタリ然レモ氏ハ其朋

ジュニアス氏
及ヒ氏ノ人ト
爲リ

友ノ此動議ヲ起サシラントナ助言セシニモ拘ハラス敢テ
之ヲ起シケレハ僅ニセルジャント、ヘウヰット氏ノ淡泊ナル賛
成ヲ得タルノミニシテ決テ起立ニ取ルニ及ンテ非常ノ多
數ヲ以テ廢棄セラレタリ
ウイルクス氏及ヒ氏ノ無分別ナル壓制者ガ惹起シタル激昂
ノ尙ホ未ダ靜止セザルニ際シ更ニ有力ナル一記者ノ罰セ
ラル、アリテ爲メニ世人ノ注意ヲシテ此一事件ニ集マラ
シメタリジュニアス氏ハ當時最モ卓絶ナル記者ニシテ其文
章ハ簡明快活ニシテ且ツ論理ニ適ヒ又學識才幹アリテ論
議ニ巧ミニ雄辯能ク世人ノ感情ヲ動カシ其刺譏ハ雅致ア
リテ且鋭キ一刃ノ如ク其罵詈ニ至リテハ實ニ人ヲ畏縮セ
シムル者アリ氏ハ常ニ他人ノ氣ヲ損ヒ其名譽ヲ汚ス事

ジュニアスノ
「王ニ呈スル
書」ト題スル
論文

トセシヲ以テ才氣アリトノ名聲ヨリハ邪智毒心アリトノ
世評更ニ高カリシ實ニ氏ハ讒謗者タルノ毒心ヲ以テ事實
ノ如何ヲ問ハス猶豫ナク官吏ノ公務ニ關スル處置及ヒ私
德ノ瑕瑾ヲ指摘攻撃セリ而シテ一千七百六十九年十二月
十九日發兌ノ「モトニング、アドヴェルタイザ」新聞ハ「王ニ呈
スルノ書」ト題スルジュニアス氏ノ有名ナル論文ヲ載セタリ
此論文ハ人民ヲ教唆煽動スル者タルハ決シテ輕々ニ看過
セラレザリシナリ而シテ當時其記者ノ誰タルヤハ分明ナ
ラサリシヲ以テ檢事ハ直チニ該新聞ノ出版者及ヒ發賣者
ニ對シテ公訴ヲ起シタリ然レモ此等ノ出版者及ヒ發賣者
ノ未ダ審問セラレザリシニ先チ書買アルモンハ此讒謗ノ
文ヲ再刊セル「ロンドンミューセアム」新聞ヲ賣捌キタルノ故チ

書籍發賣者ハ其備人ノ行爲ニ對シテモ刑事上ノ責ニ當ラザル可カラズトノ說

以テ審問セラレタリ然レモ彼ハ該新聞發賣ノ事ニ就テハ關係極メテ薄カリシコトノ確證アリシヲ以テ單ニ名義上ノミノ罰ヲ受ケテ放免セラレタリ然レモ此訴訟事件ニ於テ判事ハ讒謗ノ罪ヲ刑法ノ通則外ニ置ク所ノ二大主義ヲ主張セリ即チ其一ハ書籍發賣者ハ其備人ニ於テ讒謗ノ文書ヲ發賣スルコトアルモ自ラ之ガ主謀者タラス又同意者タラザルノ證據ナキ以上ハ其備人ノ行爲ニ對シテ刑事上ノ責ニ當ラザル可ラズト云フコト是ナリ而シテ被告人ヲシテ事實ヲ申明シテ其關係ナキコトヲ證スルヲ得セシムル間ハ此主義ノ如キモ亦論理ノ據ル可キ所ナキニ非ズト雖モ其後ニ至リ判事ハ書籍發賣者ノ備人が讒謗ノ文書ヲ發賣シタルコトハ則チ其書籍發賣者ノ有罪ナルコトノ證ナリトシテ

讒謗ノ罪ニ關シ陪審官ノ權利ノ拒否セラレシコト

之カ事實ヲ辨明スルヲ許サバリキ此奇怪ナル主義ハ一千八百四十三年ニ至ルマテ行ハレシガ同年ニ於テカムベル公ノ讒謗條例ノ爲メニ擯斥セラレタリ其二ハ讒謗ノ罪ニ關シテハ陪審官ノ權利ヲ全ク拒否スルノ主義ナリ曩ニ「ノルス、ブリトン」新聞ノ出版者ニ係ル訴訟ニ於テマンスフィールド公ハ讒謗ノ罪ヲ聽斷スルノ權ハ獨リ法院ノミニ屬ストノ主義ヲ設定セリ此主義ノ當否ハ甚々疑フベキ者ナリト雖モ亦其先例ナキニ非ズ而シテ今ヤ公ハ斷シテ此主義ヲ實行セリ抑々陪審官ノ職務ノ最モ緊要ナル點ハ文書ノ果シテ讒謗ニ涉ルヤ否ヤヲ審決スルニ在リシニ此ノ事全ク陪審官ノ權外ニ屬スルモノト公言セラレタリ蓋シ出版ノ自由ニ安固ヲ與フルハ獨リ陪審官審問法ノ一アルノミ

ナリシニ今ヤ此ノ審問法ハ英國ノ法律部面ヨリ除却セラレタリ

一千七百七十
年六月十三日
ウードフォール
ノ審問

又ウードフォール氏ノ審問ニ於テマンスフィールド公ハ陪審官ニ告ケテ曰ク其讒謗ノ官吏ニ對スルト私人ニ對スルトチ問ハズ讒謗ノ罪ニ係ル公訴狀ニ於テ其罪ヲ名ケテ讒謗ノ企圖ト云フモ惡意ノ讒謗ト云フモ教唆ノ讒謗ト云フモ將タ其他ノ更ニ甚シキ罪名ヲ下スモ是レ單ニ常規ニ照ラシテ定ムベキノ事ノミ法律ヲ推シテ決スベキノ事ノミ此事ニ關シテハ陪審官ノ得テ干與スベキ限リニ非ザルナリト然レハ陪審官ハ現ニ自ラ審判スル所ノ犯罪事件ヲ其ノ權外ニ除去セラレントスルヲ知リウードフォール氏ハ唯讒謗ノ文書ヲ印行發賣シタルノ罪アルノミニシテ其他ノ罪

一千七百七十
年十一月二十
日

一千七百七十
年七月十八日
ミルレルノ裁
判

アルニ非ズトノ斷案ヲ下シ以テ巧ニマンスフィールド公ノ主義ノ汚點ヲ打破シタリ宮廷ニ於テハ陪審官ノ此斷案ヲ修正シ而シテ單ニ有罪ト認ムルノ斷案トシテ之ヲ記録セサル可ラズトノ議ヲ主張シタリト雖モ竟ニ其目的ヲ達スルコト能ハス又法院ニ於テハ陪審官ノ此斷案ハ明確ナラサルヲ以テ改メテ審判ヲ開カザル可ラズトノ說ヲ主張シタリ次キニ「エヴニングポスト」新聞ノ印刷者兼發行者タルミルレル氏ハグールドホール法院ニ於テ審糾セラレタリ此時マンスフィールド公ハ陪審官ガウードフォール氏ノ訴件ニ向テ下セシ如キ斷案ヲ再ヒ下サシメザランガ爲メ陪審官ハ有罪ナリトシテ公訴セラレタル文書ニ就テ其性質ヲ定ムルノ權ナクシテ唯其文書ノ發行セラレシヤ否ヤノ事實ヲ

定メ又其文書中ノ毫モ疑フニ足ラサルニ三言辭ノ意義ヲ定ムルノミニ止ラザル可カラズトノ説ヲ一層明瞭ニ確言セリ此説タルヤ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘバ有罪ノ嫌疑ヲ受ケテ捕縛セラレタル者ハ判事之ヲ審問ス可ク陪審官之ヲ糾問ス可ラズト云フ者ナリ然レモ此時ノ裁判ニ於テ陪審官ハ大膽ニモ敢テ之ニ干與シミルルル氏ハ無罪ナリトノ斷案ヲ下シタリ

世人一般ニマ
ンスフイル
ド公ノ主義ヲ
非トセシフ

他ノ數名ノ出版者モジユニアス氏ノ讒謗ノ論文ヲ出版シタルノ故ヲ以テ審問ヲ受ケ而シテ遂ニ放免セラレタリ實ニマンスフイルド公ハ自ラ正鵠ヲ誤リテ過度ニ走り己ノ設ケタル危險ナル主義ハ却テ其身ニ災スルニ至レリ即チ公ハ陪審官ノ正當ナル權利ニ對シ斯カル奇怪ナル制限ヲ加

ヘントシタルコトナレバ舉世之ニ驚愕シ争フテ公ノ主義ヲ難駁セリ蓋シ此ノ難駁タル數多ノ有力ナル論説及ヒ小冊子トナリテ顯ハレタルガ就中彼ノジユニアス氏ノ如キハマンスフイルド公ニ與フルノ書ニ於テ痛ク公ヲ難撃シタリ實ニ此主義タル出版ノ自由ニ大害アルコト明白ニシテ一般ノ記者ハ大陪審官ハ固ヨリ言フヲ待タズ普通陪審官ノ豫審ヲモ經ズシテ直ニ官吏ノ爲メニ告訴セラレ其身ハ恰モ法律保護ノ區域外ニ置カレタリキ

議院ノ討論及
ヒ一千七百七
十年十一月廿
七日ケプティ
ン、フィッブ氏

此等ノ審問ハ又議院ニ於テモ非難ノ問題トナリタリケプティン、コンスタンチン、フィッブ氏ハ陪審官ノ豫審ヲ經スシテ直ニ告訴スル事ヲ制限スルノ動議ニ於テ陪審官ガ其權利ヲ侵蝕セラレタルコト并ニ書籍發賣者ハ其傭人ノ行爲ノ

ノ動議

爲メニ刑事上ノ責ニ當ラサル可ラズトノ説ノ非ナルトニ
 關シテ卓説ヲ述ヘコルンウオール氏セルジャントグリーン氏
 ボルク氏ダンニング氏タブルユイメレヂス氏ハマンスフ
 イールド公ノ主義ヲ非難シ大檢事ドグレイ氏及ビ大訟師
 サルロウ公ハ之ヲ可トシテ賛成シタリ

一千七百七十
 年十二月五日
 チャタム公

一千七百七十

上院ニ於テチャタム公ハマンスフイールド公ガ近日讒謗罪ノ
 裁判ニ於テ陪審官ニ與ヘタル命令ノトニ關シテ公ヲ攻撃
 シタリシニ公ハ其非ナラザルヲ辯シタリ而シテカムデン
 公ハ上院ヲシテ此事ノ當否ヲ判スルヲ得セシメンガ爲メ
 マンスフイールド公ノ意見ヲ十分ニ詳述セシメテ公ニ望ミ
 タリ
 尋テ下院ニ於テモセルジャントグリーン氏ハ刑事裁判ノ執

年セルジャン
 トグリーン氏
 ノ動議

行法就中出版ノ自由ニ關スル裁判及ヒ陪審官ノ憲法上ノ
 權利義務ヲ調査セシメンガ爲メニ委員ヲ撰任ス可シトノ
 議ヲ提出シ同シク喧噪ナル議論再ヒ起リシガ遂ニ決テ取
 ルニ及ヒ僅ニ八名ノ多數ニ由リテグリーン氏ノ動議ハ廢
 棄セラレタリ以テ下院ノ意見ノ向フ所ヲ知ルベキナリ彼
 ノチャーレスフォックス氏ノ如キハ後日ニ至リ讒謗律ノ改正
 ニ最モ盡カシタル人ナリト雖モ當時ノ討論ニ於テハ毫モ
 氏ガ將來此事ニ盡カスルノ前兆ヲ示サバリキ氏ハ論シテ
 曰ク陪審官ガ其憲法上ノ權利ヲ剝奪セラレタリトノ實證
 ハ果シテ那邊ニ存スルヤ又曰ク此議案ヲ主張スルノ儕輩
 ハ己等ノ讒謗ノ議論ト己等ノ自ラ起草シテ世ニ流布セシ
 メント勉メタル夫ノ耻ツ可キ誹譏及ヒ罵詈トテ吾人ニ回

マンズフィールド公がウイ
ドフォールノ
訴件ニ係ル判
決文ヲ上院ニ
差出セシ

想セシムル者ナリト
下院ニ於テ此討論アリシ翌日マンズフィールド公ハ上院ニ
通報スヘキコアルヲ以テ十二月十日ヲ期シテ同院ノ會議
ヲ開カンコトヲ求メタリ然レモ當日公ハ上院ニ於テ動議ヲ
提出セシニモアラズ又意見ヲ演述セシニモアラズシテ單
ニ言テ曰ク余ハウイドフォール氏ノ訴件ニ係ルキングスベ
ンチ「法院ノ判決文ノ寫ヲ我カ上院ノ書記ニ渡シ置ケリ故
ニ上院議員ニシテ望アル者ハ右ノ判決文ヲ閱讀シ且ツ之
ヲ書取ルコトヲ得ベシ」ト然レモ此一言ハ以テ討論ヲ誘起ス
ルニ足レリ而シテ其ノ翌日カムデン公ハマンズフィールド
公ガ右ノ判決文ヲ差出シタルハ己レニ對シテ議論ヲ挑ミ
タルノ證ナリト信認シ乃ハチ言テ曰クマンズフィールド公

一千七百七十
一年ドイデス
ウェル氏ノ動
議

ハ余ヲ挑ミタリ故ニ余ハ之ニ應セシ余ハ公ト全ク相反シ
公ノ主義ハ英國ノ法律ニ非ザルヲ主張スルモノナリト而
シテカムデン公ハ此事ニ關シマンズフィールド公ニ對シ六
ヶ條ノ疑問ヲ述ヘタリシニ公ハ困頓狼狽ノ間ニ答テ曰ク
余ハ疑問ニ對シ答辯ヲ爲サル可シ然レモ此事ハ本院ニ
於テ宜シク討論スベシト然レモ討論ノ期日ヲモ定ムルコ
トナク相争フ議員ノ熱心ナリシニモ拘ラズ再ヒ討論セラレ
ズシテ止ミタリキ
然レモ此事ハ憲法上最モ不正ノ事タルヲ以テ更ニ他ノ非
難ヲ免ルコト能ハスドイデスウェル氏ハ讒謗罪ノ訴件ニ於
テ陪審官ノ權利ニ關スル疑惑ヲ明解ス可シトノ動議ヲ起
セリ蓋シ此動議ハフォックス氏ガ二十年後ニ至リ提出セシ

所ノ議案ノ基礎ヲ成ス者ナリ此動議ハジョーザイル氏之ヲ
 賛成シボルク氏モ亦巧妙ナル演説ニ依リテ之ヲ賛助シタ
 リ其説ニ曰ク果シテ讒謗罪ヲ陪審官審判ノ外ニ除クヲ可
 トスル以上ハ殺人罪ノ公訴ヲ受ケタル者ノ惡意アルト否
 トヲ決シ竊盜罪ノ公訴ヲ受ケタル者ノ邪心アルト否トヲ
 決スルガ如キモ亦之ヲ陪審官ノ權外ニ置キテ判事ノ獨斷
 ニ任セザル可ラズ此ノ如キノ主義ヲシテ我法律ヲ蠶食セ
 シムルキハ陪審官ノ制ハ我憲法上ノ死文タルニ至ランノ
 ミト然ルニ此動議ハ延期ノ可否決ニ於テ遂ニ廢棄セラレ
 タリ當時民權黨ノ領袖ハ何レモ世ノ記者ノ運命如何チ一
 ニ法院ノ隨意ニ任スルノ極メテ危險ナルヲ知レリ現ニ
 ロツキンガム公ハドローデスウェル氏ニ書ヲ與ヘテ曰ク法律

エルスキン氏
 陪審官ノ權利
 ヲ保持セシム
 セント、アサフ
 教掌ノ裁判

ノ適用ト事實ノ有無トヲ共ニ審案スヘキ陪審官ノ權利ヲ
 再立確定スルヲニ眞ニ盡カスル者ハ後世子孫ヲ利スル最
 良ノ朋友ナリト然レニ此業ハ多年ノ間尙ホ遂成セラレズ
 シテ讒謗ノ法律ハ依然法院ニ於テ之ヲ執行シ議院ハ常ニ
 畏縮シテ敢テ此主義ヲ擯斥スルヲ爲サザリキ
 然レニ陪審官ノ權利ハエルスキン氏ノ雄辯ト膽力トニ由
 リ法院ニ於テ永ク保持セラレ、トヲ得タリ抑此大成セル
 狀師ガセント、アサフ教掌ノ裁判ニ於テ辯護ニ盡力セシム
 ハ裁判歴史ニ最モ著明ナル事實トス氏ハ此裁判ニ於テ讒
 謗ノ公訴ニ關シ陪審官ガ其有罪無罪ヲ審按スベキノ權利
 アルヲ數回主張シアサフ教掌ノ訴件ニ關シ改メテ審問
 ヲ爲サンヲ論センカ爲メニ一演説ヲ爲シタリ氏ノ此演

説ハフックス氏が屢々評シテ英語ヲ以テ述ヘタル議論中
 ノ最モ美ナル者ナリト公言セシ者ナリ氏ハ論シテ曰ク陪
 審官ヲシテ罪ノ有無ヲ審按シ並ニ場合ニ依リ無罪ノ斷案
 ヲ下スノ權利ヲ有セシメスシテ裁判官自ラ有罪ノ判決ヲ
 爲スニ於テハ被告人ハ實ニ審問ヲ受ケタル者ト云フ可カ
 ラズト而シテ氏ハ首尾貫通セル論理ニ因リ大家ノ説ト先
 例トニ照ラシ其ノ自ラ痛撃スル所ノ奇怪ナル主義ハ英國
 ノ法律ト齟齬セルヲ論シタリ然ルニ改メテ審問ヲ爲ス
 一ハ拒絕セラレ且ツマンズフィールド公ハ自家ノ主義ノ將
 サニ擯斥セラレントスルヲ毫モ豫察セズシテ法律ノ執行
 ナ一ニ法院ニ任スルヲ難スルガ如キハ取ルニ足ラサル
 ノ空論狂説ナリトシテ之ヲ嘲笑セリ然レハ當世第一流ノ

一千七百八十
 九年ストック
 デールノ審問

政治家及ヒ後世ノ識者ハ決シテ斯ル説ヲ採ラザルナリ
 是ニ於テ乎エルスキン氏ハ宣告延期ノ議ヲ起セリ蓋シ公
 訴狀ニ於テ讒謗ナリト指摘セル文書ハ毫モ罪スベキ者ニ
 非サル一ハ氏ノ能ク知ル所ナリ然レハ氏ガ此時ニ至ルマ
 テ再審問ノ説ヲ主張スルヲ勉メタルハ主トシテ陪審官
 ノ權利ヲ保持センガ爲メナリ今ヤ氏ハ此文書ノ法律ニ照
 ラシテ毫モ罪スベキ者ニ非サルヲ辯明セシニ法院ニ於
 テモ各判事共ニ公訴狀ヲ不十分ナリトナシ遂ニ教掌ハ無
 罪ナリトシテ放免セラレタリ
 一千七百八十九年ニ於テストックデール氏ノ裁判起リ之
 ガ爲メニエルスキン氏ハ再ヒ英國ノ法院ニ於テ曾テ聞カ
 サル如キ最モ能辯ナル演説ヲ爲シ以テ言論ノ自由ヲ主張

スルノ好機ヲ得タリストツクデールハローガン氏ノ起草ニ係ル所ノワーレンヘスチング氏ヲ辯護スルノ小冊子ヲ出版セシガ爲メニ大檢事ハ下院ノ囑託ヲ受ケテ之ヲ公訴セリ即チ其公訴ノ趣意ハ此小冊子タル下院ガワーレンヘスチング氏ヲ彈劾シタルヲ不公不正ナリトシテ下院ノ名譽ヲ汚サントノ意ニ出テタル凌辱且教唆ノ讒謗ナリト云フニ在リエルスキン氏ハ被告ヲ辯護スベキ特別ノ理由ヲ述ヘタル後更ニ巧妙ニシテ且勇壯ナル議論ヲ爲シテ曰ク被告ハ公訴狀ニ抄出シタル二三ノ言句ニ徴シテ裁判セラレベキ者ニアラズ宜ク小冊子ノ全文ヲ通覽シ其大體ノ性質ト目的トヲ按シテ裁判ヲ爲サザルベカラズ若シ其大體ノ性質ト目的トニ於テ公平正當ノ者ナランニハ被告ハ放

免セラレザル可ラズト氏ハ此問題ヲ陪審官ノ審斷ニ附シ自ラ謂ラク苟モ尋常ノ感覺ヲ有スル者ニ在リテハ此問題ハ毫モ法律ノ執行ニ係ルモノニ非スシテ純然タル事實上ノ問題タルヲ思惟セザルヲ得ザルベシト此訴訟ヲ裁判シタル判事ハケンヨン公ニシテ公ハ敢テエルスキン氏ノ主義ヲ爭ハザリキ而シテ陪審官ハ小冊子ノ全文ト公訴狀トヲ對照審査シテ無罪ナリトノ斷案ヲ下セリ斯ノ如クニシテエルスキン氏ハ充分ニ自由ノ言論ヲ爲スハ合法ノ事ナリ人ハ其文書中ニ二三ノ過激ナル語ヲ用ユルアルモ爲メニ罰セラレベキニ非ス其有罪ナルト否トハ宜シク通篇ノ目的ヲ熟按シ全文ノ精神ヲ查察シテ之ヲ決セザルベカラス而シテ之ヲ決スルハ陪審官ノ當ニ爲スベキ所ナリト

云フ緊要ナル一主義ヲ確立スルヲ得タリ左レバエルス
シ氏ハ言論自由ノ爲メ及ヒ陪審官權利ノ爲メニハ苟モ能
辯ト勇膽ト裁判上ノ熟練トヲ以テ自ラ盡シ得ベキ所ハ悉
ク盡シタル者ト謂フ可シ

今ヤ議院ハ其既ニ久シク遅延セシ所ノ事ヲ爲サザル可カ
ラザルニ至レリ一千七百九十一年五月フオックス氏ハ二十
年前ニ氏ガ讒謗律ニ關シテ爲シタル輕躁ナル演說ノ甚非
ナルヲ曉リシ旨ヲ述ベタリ氏ハ當時ノ意見ノ誤謬ナリ
シヲ自白シ今ヤ非凡ノ辯才ト學力トヲ以テ壯快ナル演
說ヲ爲シ夫ノ危險ナル法律主義ヲ暴露シテ之ヲ難駁セリ
氏ハエルスキン氏ガセント、アサフノ教掌ヲ辨護セシ時ノ
演說ヲ評シテ曰ク此演說タルヤ辯勇壯ニ語快活ニシテ最

一千七百九十
一年五月二十
日フオックス
氏ノ讒謗律議
案

モ聽者ヲシテ感激ニ堪ヘザラシメタリ左レバ鬼神ノ力ヲ
以テスルニ非ザルヨリハ尋常人ノ能ク抗スル能ハザル所
ナリト氏又論シテ曰ク讒謗ノ訴件ニ於テ法院ノ主張スル
所ノ主義果シテ正當ナリトセンカ國事犯ノ訴訟ニ於ケル
モ亦此主義ヲ正當ナリトセザル可ラズ余今國事犯ノ處爲
ナリトシテ公訴セラレタル文書ヲ記シ爲メニ裁判ヲ受ク
ル者トセン歟然ルキハ文書ヲ發行シタルノ一事ハ事實タ
ルニ相違ナキガ故ニ陪審官モ之ヲ然リト審決セン故ニ若
シ宣告延期ノ議ヲ起サザルニ於テハ法院ハ直ニ彼ヲ死ニ
處セヨトノ宣告ヲ下スナラン果シテ斯ノ如クナレバ余ハ
其意志ノ有罪ナルヤ否ヤニ關シテハ陪審官ノ審斷ヲ經ズ
シテ其生命ヲ失ハザルヲ得サル可シト當時エルスキン氏

ガフオックス氏ノ議案ヲ賛成シタルハ當サニ然ルベキ所ニシテ氏ノ名ハ永久此緊要ナル議案ト聯結シテ相離レザルベシ而シテエルスキン氏ノ議論ハ茲ニ之ヲ再掲スルヲ要セズト雖ヒ氏ハ當時ノ法律執行法ノ如何ヲ見ルニ足ル可キ一事ヲ述ヘシヲ以テ茲ニ之ヲ記セザル可ラズ即チ氏ハ被告人ノ有罪タルト無罪タルトヲ審斷スヘキ陪審官ノ疑フ可カラザル特權ヲ判事が掠奪シタルコト示シ且言テ曰ク若シ宣告延期ノ議ヲ起シ被告人ノ意志ノ無罪ナルコトヲ法院ニ向テ論辯スルキハ法院ハ常ニ答フルニ既ニ陪審官ニ於テ文書發行ノ事實アルヲ認メタル以上ハ以テ被告人ノ意志ノ有罪ナルヲ決スルニ足レリト云フヲ以テセリ而シテ被告人ノ意志ノ有罪タルト無罪タルトヲ審斷スヘキ

陪審官ノ權力ハ判事ノ權力ノ爲メニ全ク奪ヒ去ラレタリト

當時此問題ニ關シ下院ノ説ハ全ク一變シテフオックス氏ノ意見ニ對シ殆ト反對者ヲ見ザルホドナリ大檢事モ亦氏ノ説ヲ賛成シテ速ニ其法律ヲ明定スルノ議案ヲ提出セシコトヲ勸告セシガフオックス氏ハ直ニ之ニ一致セリピット氏ハ論シテ曰ク讒謗罪ノ訴訟ニ關シ法院ノ法律執行ノ手續ヲ整理シ之ヲシテ憲法ノ精神ニ適應セシメザル可カラズト乃チフオックス氏ノ議案ハ毫モ異論ノ聲ヲ聽クコトナクシテ下院ニ提出セラレ而シテ容易ニ下院ヲ通過シタリ然レモ上院ニ於テサルロウ公ハ此議案ノ極メテ重大ノモノナルニ拘ハラズ當會期ノ將サニ終ラントスルニ臨シテ

之ヲ討論スルハ非ナリトノ理由ヲ以テ之ニ反對シカムデ
 ノ公ハ此議案ハ余ガ平素英國法律ノ眞義ナリト確信スル
 所ヲ公定スル者ナリトシテ之ヲ贊成セリ斯クテ此議案ハ
 一ヶ月間可否ノ起立ヲ取ルコトヲ延期シタリシガ二議員ノ
 此延期ヲ不可トシテ異議録ニ署名シタル者アリキ
 次回ノ國會ニ於テフックス氏ノ議案ハ再ヒ異議ナクシテ
 下院ヲ通過セリ上院ニ於テハサルロウ公更メテ之ニ反對
 シ遂ニ公ノ請求ニ因リ或ル疑問ニ關シ判事ノ意見ヲ得ル
 マテ此議案ノ第二讀會ヲ延期スルコトニ決セリ乃チ七ヶ條
 ノ疑問ヲ判事ニ回附セシニ五月十一日ニ至リ其答申ヲ得
 タリ當時議院ニ於テ排斥セントスル所ノ法律主義ノ危険
 ナルコトハ既ニ明白ナリト雖モ尙ホ其證ヲ要スルトナラバ

一千七百九十
 二年ノ讒謗律
 議案○同年三
 月二十日

各判事ノ衆口一様ナル答申中ヨリ此證ヲ得ベシ其答申ニ
 依レバ此危険ナル主義ハ獨リ讒謗罪ノミニ限リタルニ非
 スシテ如何ナル行爲ト雖モ其有罪タルト無罪タルトハ法
 律カ此行爲ニ對シ宣告セル判斷ニ由テ定マル所ノ結果ナ
 リ即チ或行爲ノ有罪タルト無罪タルトハ事實ノ如何ニ依
 テ決スルニ非スシテ如何ナル場合ニ於ケルモ如何ナル事
 情アルモ唯其行爲ニ對スル法律上ノ規定如何ニ依テ決ス
 ル者ノ如シ之ヲ再言スレバ判事等ハフックス氏カ嘗テ論
 シタル如ク國事犯ノ行爲ト認メラレタル書信或ハ新聞紙
 ノ有罪タルト無罪タルトハ事實ノ如何ニ依テ決スルニ非
 スシテ法律ノ如何ニ依テ決スル者ナレバ實際上甚危険ナ
 リト抗論セリ然レモ流石ニ斯ル驚クベキ斷案ニ躊躇セシ

讒謗律ノ結果

ニヤ之ニ附言シテ曰ク我輩ハ此法律上ノ事件ヲ夫ノ罪ノ有無ヲ決スヘキ陪審官ノ權外ニ置クノ説ヲ爲ス者ニハ非ストガムデノ公ハ曾テ屢々述ヘタル説ヲ復演シテ判事ノ主義ヲ辨駁セシガ今ヤ議案ハ速カニ上院ヲ通過シ只サルロト公以下五名ノ議員ハ異議録ニ署名シ此議案ヲ以テ大英國ノ法律ヲ錯亂泯滅スル者ナリト豫言セリ

斯クテ各裁判官及ヒ當時ノ重モナル法制官ノ反對アルニモ拘ハラズ千七百七十二年ノ有名ナル讒謗律議案ガ全ク國會ヲ通過スルヲ得タルハフオックス氏エルスキン氏カムデン公及ヒ立法院ノ不滅ナル名譽ナリト云フヘシ

蓋シ此法律ノ公布セラレタルハ取りモ直サス國會ナル高等法院ガ各裁判官ノ決定ヲ破毀シタル者ニシテ此法律ヲ

出版ニ於ケル自由言論ノ一般ノ進歩

制定シタルノ目的ハ一トシテ成功セサルモノナクニ方ニ於テハ陪審官ノ權利ヲ鞏固ニシ被告人ニハ其朋友ノ公平ナル審斷ヲ得セシムルト同時ニ地方ニ於テハ法律ノ不安ヲ來シ罪人ノ逃避ヲ免スカ如キノ危険アルコトナク却テ陪審官ガ其特權ニ戀々シ此等ヲ掠奪セル裁判官ニ對シ憤懣ヲ抱ケル時ヨリハ實カニ政府ヲ攻撃スル者少ナキヲ發見セリ

此時代ノ開始以來出版ハ其自由勢力及ヒ尊敬ニ於テ著シキ進歩ヲ爲セリ即チ公事ヲ批評シ政府ノ行爲及ヒ立法院ノ處置ヲ辯難スルノ權利ハ明カニ確定セラレ在朝ノ諸大臣ハ出版者ヲ刑戮ニ處セントシテ屢々失敗シタルガ爲メ法律上ノ錯誤ニ由リテ讒謗者ノ口ヲ箝セシヨリハ鞏固其

處置ノ正當理由トシテ輿論ニ依頼スルノ勝レルニ如カザルコトヲ覺知セリ是ニ於テ平ウルクス及ビシニマスハ相共ニ起テ出版ヲ隆盛ナラシメ并ニ人民ノ政治思想ヲ發達セシムルコトニ奔走シ新聞報道者及ビ出版者ハ國會ノ討論ヲ擴布スルコトニ關スル同會ノ抗論ニ打勝チタルヲ以テ今ヤ出版ハ國事ト一層密接ノ關係ヲ有スルニ至リ殊ニ其職務ノ他位一層高ク其責任モ亦一層重キヲ加ヘリ即チ政治家ハ各自ノ議論ヲ廣ク聽聞セシメ其行爲ニ關シテハ社會公衆ニ訴ヘ又出版ノ錯誤ト誣妄トヲ世ニ暴白スルヲ得ヘク主治者ト批評者トハ輿論ナル裁判廳ノ前ニ相對シテ其可否ヲ争フトナリ且ツ出版ハ大ニ其區域ヲ擴メテ記者ハ唯當時ノ批評ト議論ニ最モ熟練セル人タルノミナラス日

狂書

々國人ノ教育ヲ分擔スルコトハナレリ又新聞紙ハ需用急ニ増加シテ今尙ホ其名聲ト勢力ト甚々盛ナル諸新聞ハ多ク此時代ニ創立セラレタリ而シテ其報道ノ完全ニシテ迅速ナル其刊行ノ多度ナル其文才ノ俊秀ナル孰レモ其記者ガ國民ヲ教導スヘキ名譽アル職掌ニ適任セルコトヲ證明セリ
政治上ノ爭論ニ於テ美術ガ文字ヲ助クルニ至リタルコトヲ記載スルハ決シテ無益ノコトニアラサルナリワルボリル氏ノ時以來時々諸大臣ノ身上ニ關スル瑣事ヲ狂書ニ現ハセシコトアリシカ此時代ニ至リ狂書師ハ人民ノ感情ニ對シ少カラサル勢力ヲ有スルニ至レリギルン丁氏ノ豪氣ニシテ且ツ大膽ナル狂筆ノ一度フオックス氏及ビソールス公ニ對

スル人民ノ攻撃ヲ挑發スルニ與リテ力アリシヨリ此熟練ナル狂畫師ハ狂畫ノ地位ヲ高メテ新技術ノ中ニ列セシメタリ即チ人民ハ之ニ依テ政治家ノ容貌ト性質ヲ熟知シ群衆ハ狂畫賣捌人ノ窓前ヲ圍繞シ畫師ノ誹謗シタル政治家ニ逢フモ相弄笑シテ更ニ敬意ヲ表スルコトナシ而シテ出版ノ強大ナル一同盟者トモ云フベキ此狂畫ハ其始メ或ル一政黨ノ利益ノ爲メニ用ヒラレシカ後チ遂ニ民力ノ一要素トナルニ至レリ

此時ニ際シ輿論ヲ支配シ政府ト立法院トヲ左右スヘキ他ノ一方便新ニ案出セラレタリ即チ公會ハ開カレ政社ハ組成セラレ而シテ謂フ所政治上ノ激騷ナル者ハ變シテ一ノ規定アル組織ニマテ進歩シタリ大凡時ノ古今ヲ問ハス國

ノ内外ヲ論セス又政體ノ如何ニ係ハラス國內激動ノ時ニ當リテハ其人民ハ直接ニ主治者ヲ脅嚇スルノ習慣アリテ或時ハ一揆ト反逆ニ依リ或時ハ器聲ト不平トニ依リテ彼等ノ艱苦ヲ知ラシメ以テ其救濟ヲ要求セリ我英國ニ於テモ人心屢々激動シテ内亂又ハ革命ヲ起シタルト鮮カラズ而シテ稍ヤ靜謐ナル世ニ在リテハ人民能ク政府ト立法院ヲ制御スルヲ得テ如何ニ剛愎ナル宰相ト雖モ斷乎トシテ一般人民ノ強請ヲ聽許セサル者ハナシ即チ一千七百三十三年ニ於テサロバトウルポルハ人民ノ爲メニ追ラレテ先キニ一旦發シタル物産稅案ヲ回收セサル可ラサルニ至リ同七百五十四年ニ於テ國會ハ猶太人ニ公民タルノ權利ヲ許與シタル近代ノ法令ヲ人民ノ僻見ニ從テ廢止セ

一千七百六十
五年絹織職工
ノ一揆

ザル可ラザルニ至リタリ
此時代ノ始ニ於テ人民ハ出版ト相結合シテビュロト公ヲ
國王ノ側ヨリ退カシメシト努メ其後多年ノ間宮廷ト國會
トノ干涉ニ依リ此激動ハ容易ニ靜止セスシテ一時紛亂ヲ
極メタリ
一千七百六十五年上院ニ於テ絹帛保護議案ヲ否決スルヤ
スピタルフィルズノ絹織職工大ニ激動シ黒旗ヲ翻シテセシ
トジエームス宮ノ門前ニ群集シウエスト、ミンスターノ議事
院ヲ圍ミ上院議員ノ退出スル者アル毎ニ其議案ニ反對セ
シヤ否ヤヲ詰問セリ當時暴民等ハ此議案ヲ辯難セルベツト
フオールド公ヲ攻撃セリ然ルニパレトスヤードニ於テ騎兵隊
ノ爲ニ追ヒ退ケラレタルヲ以テ今ヤ轉シテベツトフオールドハ

五月十五日

五月十七日

ウスヲ襲ハント欲シテ進行セシニ再ヒ護衛兵ノ爲メニ邀
撃セラレタリ是レ則チ恐嚇ヲ以テ國會ヲ討論ヲ左右セシ
ト欲シタル法外ナル暴舉ナリ蓋シ此ノ事ノ如キハ法律及
ヒ正當自由ニ反對セル古風ノ暴動ナリト雖モ亦全ク成功
ナキニハアラズ即チ職工等ハ製造所長等ノ爲メニ煽動セ
ラレ政治家ト親密ナル黨與ニ依テ鼓舞セラレテ勢力頗ル
盛ナリシカバハリツキス公ハ遂ニ職工ヲ満足セシメ
テ約シ翌年外國絹帛輸入禁止ノ議案國會ヲ通過シタル時
織工等ノ歡喜甚々大ナリキ
然リト雖モ當時一般ノ不平ハ其後久シカラスシテ憲法政
府ニ一新世期ヲ開キタル所ノ一層恐ルヘキ他ノ沸論ヲ引
起セリ一千七百六十八年ウイルクス黨ノ人民ハ激動ノ極

一千七百六十
八年ノ激動

千八百六十八年ヨリ同七十年ニ至ル公會及ヒ結社

途ニ暴發シテ兵士ト争鬪ヲ開クニ至リタリシカ此ノ暴動ニ續テ又一層根基アリ且合法ナル激動ヲ生シタリ下院ガミッドルセツキスナル撰舉人ノ權利ヲ犯スヤ當時第一流ノ政治家國會ノ反對黨權利ヲ損害セラレタル撰舉人倫敦ノ文官及公民大半ノ中級人民出版并ニ平民ハ共同一致シテウイルクスノ地位ヲ保持セント努メ勇憤鬱勃タル地主ハウイルクスヲ助シカ爲メ故ラニ集會ヲ開キ他縣ノ地主マテモ之ニ共同スルニ至リ或ハ痛切ナル上書建白ヲ國王ニ奉呈スル者アリシニアスノ如キハ恐ルヘキ激論ヲ唱ヘ其他種々ノ政治的激動ハ到ル所ニ起リシガ就中最モ記念スベキモノハ當時始メテ此國制度ノ一ニ入リタル公會ナリ此公會ハ凡ソ十七州ノ人民ガミッドルセツキスノ撰舉人ヲ

千七百七十九年ヨリ同八十年ニ至ルマデノ公會

援助セシカ爲メニ開キタルモノナルガ此ノ如ク大壯ナル法式ニ於テ公衆ノ感情ヲ發表シタルガ如キハ未ダ嘗テ見サル所ニシテ是レゾ即チ公議輿論ノ發達ニ於テ現レタル一新顯象ナリト云フベシ此公會ニ續テ權利法典保持協會ナル一社新ニ組織セラレタリキ其後十年ヲ經テ公會ハ一層緊要ニシテ且ツ宏大ナル組織ヲナスニ至レリヨークシヤニア外二十三州ノ地主及ヒ諸都府ノ住民ハ理財及國會ノ改革ヲ討議センガ爲メ其州長及府知事ノ爲メニ召集セラレタリ此等ノ公會ニハ其近隣ノ紳士等臨席シテ國會ヲ刺衝シ及公衆ノ賛成ヲ得ルノ目的ヲ以テ演說ヲナシ議事ヲ決シ且ツ請願書ヲ出スコトヲ決定セリウエストミンスター・ホールニ於テハフオックス氏會

政治上ノ結社

長トナリテ大集會ヲ開キボトラント公及國會ニ於ケル
 反對黨ノ有名ナル議員多ク之ニ出席セリ加之此等ノ集會
 ハ各地方ニ自生セシ者ニアラスシテ國中到ル所頻繁ナル
 通信活潑ナル結社及ヒ共同一致シタル舉動ニ依テ助長セ
 ラレ諸州ヨリ撰マレタル通信及結社委員ハ人心ヲシテ常
 ニ活潑勇壯ナラシメント努メ倫敦ヲシテ其中央部ヲラシ
 メシト欲シテ惣代員ヲ之レニ派出シタリ然ルニ國會ニ於
 テハ痛ク此惣代員撰擧ノ事ヲ尤ノ其代理主義ハ立法院ノ
 權利ヲ賤蔑シタル者ナリトテ之ヲ非難セリ蓋シ各州ノ惣
 代人ハ其州長ニ依テ撰擧ヲ承認セラレタル者ニ非ルヨリ
 ハ決シテ惣代人ト見認ム可ラザレハナリ思フニ下院ガ單
 ニ地主ノ資格ヲ以テ署名シタル惣代人三十二人ノ請願ヲ

却下シタルハ首トシテ此理由ニ因ルナラシテ此ノ如
 キ組織體ガ將來國會ノ討議上ニ及ホスヘキ勢力ハ既ニ豫
 知セラレシト雖モ是レ決シテ防遏スヘキモノニアラスシ
 テ既ニ結社ノ起ル以上ハ之ヲ代表スヘキ代理人ノ出ルハ
 當然ノ出來事ト云フベシ當時此等ノ代理人ハ下院ノ權力
 ヲ僭擬セサルノミナラス人民ノ不幸ヲ救濟センガ爲メニ
 謙遜ナル歎願者トシテ自ラ下院ニ出頭セリ彼等ハ人民ヲ
 代表セスシテ人民不幸ノ原因ヲ代表セリ社團ヲ結ヒ集會
 ヲ開キ議論ヲ爲シ通信ヲ往復シ及ヒ政治上ノ目的ヲ以テ
 共同一致ノ運動ヲナス事ニシテ法律ニ抵觸セザランカ已
 レノ言論ヲ代表センカ爲メニ代理人ヲ撰擧スルハ決シテ
 違法ナリト云フ能ハサルヘシ若シ其目的ニシテ法律ニ抵

政治上ノ社團
ヲ論ス

觸セス其舉動ニシテ秩序ヲ紊ラサシムルガ其自由言論ニ効
 驗ヲ與ヘンガ爲メ要スル所ノ方便ハ決シテ憲法ニ違背セ
 ル者ニハアラザルナリ而シテ此方便ハ一時多小ノ制限ヲ
 受ケタルモ後來ハ遂ニ政治機關ノ一部ヲ占ムルニ至リ其
 他ノ政治結社及ヒ協會モ亦當時漸ク確立セラレシノ如ク
 シテ社團ノ主義ハ其全力ヲ出シテ以テ活潑ナル作用ヲ實
 地ニ顯ハスニ至リタリ是ノ時ニ當リ後來政治結社ノ警敵
 ダルビッド氏ハ諸政社ヲ獎勵シテ國會ノ改革ヲ要求セシメ
 其惣代人等ト評論合議セシトアリシカ遂ニ氏自ラ憲法通
 信協會ノ一員トナルニ至レリ
 此時ニ當テ公衆ヲ感動シ人民ヲシテ其心ヲ國事ニ傾ケシ
 ムル所ノ他ノ勢力漸ク社會ニ顯出シタリ即チ政治上ノ目

的ヲ有スル社團及ヒ大集會ハ此時以後人心ヲ攪動スルニ
 最モ勢力アリ最モ感應力アルモノトナレリ社團及ヒ大集
 會ハ其現實ノ力ニ依リテ以テ人民心裡ノ確信ト多數的ノ
 腕力ヲ證明スルノミナラス兼テ又議論ト實動トノ二者ヲ
 結合セリ蓋シ出版ガ人ヲ勸説シ又ハ辯服スルノ力ハ如何
 ニ強大ナリト雖モ只其人ノ家内又ハ職務ニ於テ之ヲ感動
 スルニ過キス然ルニ今ヤ人民カ心情ノ熱中ヲ證明スヘキ
 集會ナルモノ起リ散在セル輿論ノ勢力ハ集合シテ漸ク世
 人ノ爲メニ指目セラレシノ如クシテ或ル道理ハ多數人民
 ノ同情ト雷同ニ由テ一般ニ行ハル、トナレリ之ヲ要ス
 ルニ人民ハ恰モ夫ノ公會堂ニ於ケルカ如ク一昧トチリテ
 主治者ト相對立スルトナリシナリ

且又社團ハ一ノ道理ヲシテ永久ノ利害ヲ有セシムルコト
 ナリタリ例ヘハ政治上ノ激動ハ一日ニ鎮定シ得ヘシト雖
 正熱心且ツ活潑ナル一黨與ノ採用シタル道理ハ決シテ睡
 眠スルコトナク或ハ集會通信ニヨリ或ハ總代派遣ニヨリ或
 ハ決議請願論文廣告ニヨリテ絶ヘス攪起セラル、ヲ以テ
 決シテ人ノ記憶ヲ脱スルコトナシ故ニ此道理ノ實行セラレ
 テ凱旋スルニアラサルヨリハ世上決シテ平和沈靜ナルコ
 能ハザルナリ
 今ヤ公會及社團ハ國家ニ對シテ重要ナル勢力ヲ顯ハス所
 ノ者トナリシガ其力ハ實ニ強大ニシテ且ツ危險ナリ蓋シ
 賢明ニシテ正實ナル人ノ指導セル善策ニ關シテハ公會社
 團モ國家人民ニ著シキ利益ヲ與フベシト雖正輕躁不徳ナ

千七百七十八
 年ヨリ同八十
 年ニ至ル耶蘇
 新教徒ノ社團

ル首領等ノ嚮導セル惡策ニ關シテハ公會社團ハ徒ニ騷亂
 一揆ノ機關トナリ易シ要スルニ智力ト腕力トノ共同ハ時
 トシテ脅嚇ヲ抑制シ得ヘシト雖正亦之ヲ教唆攪起スルコ
 アリ蓋シ議論ハ脅嚇ヲ起サシメ激語ハ無法ナル亂暴ヲ惹
 起シ得ルモノナリ若シ我國史ヲ緝カハ政治的激動ノ有益
 ナルト危險ナルトノ實例ハ歴々トシテ充滿スルヲ見ルベ
 シ
 彼ノ耶蘇新教徒ノ社團ノ如キハ當時最惡ナル形狀ニ於テ
 此ノ激動ノ危險ヲ顯ハシタル者ナリ紀元千七百七十八年
 立法院ハ英蘭ノ加特力教徒ニ與フルニ少許ノ自由ヲ以テ
 シタルニ蘇格蘭ノ熱心ナル新教徒ハ同國加特力教徒ニモ
 亦此恩典ノ下ラシコト恐レ相團結シテ以テ之ニ抵抗シタ

リ實ニ社團主義發達ヲ迅速ナル八十五ノ多キニ達シタル諸協會即チ通信協會ハエヂンボロ協會ト相通シテ結社スルニ至レリ人民ハ何レモ演說小冊子論篇說教ニ依リテ其迷信ノ情ヲ漏ラシ其ノ狂憤ハ遂ニ破裂シテ羞ツベキ一揆トナリシガ然カモ此惡ムヘキ激動ハ遂ニ成功スルニ至レリ即チ蘇格蘭ノ加特力教徒ハ平和ヲ求メンガ爲メニ其正當ナル權利ヲ割愛シ國會ハ其判斷ヲ蘇國群衆ノ決斷一任シタリニ

尋テ此激動英蘭ニ瀰漫シ新教徒ノ社團倫敦府ニ起リ國內各地ノ諸協會ハ皆之ニ響應セリ而シテジョージ、ゴルドン公ハ英、蘇兩國ニ跨レル此廣大ナル協會ノ總理ニ撰擧セラレタリ蘇格蘭ノ新教徒ハ既ニ能ク立法院ヲ服從セリ英蘭

ジョージ、ゴルドン公總理トナル

千七百八十年五月二十九日
コーチメーカ
ース、ホー
集會

ノ新教徒ハ豈ニ脅迫ニ依リテ其勝利ヲ收ムルト能ハザラシヤ今ヤ彼等ハ實ニ之ヲ試驗セント企テリ一千七百八十年五月二十九日ジョージ、ゴルドン公ハ新教徒社團ノ一大集會ヲコーチメーカース館ニ開キ夫ノ加特力教徒ノ特典廢止ノ請願書ヲ下院ニ捧ルヲ決議セリジョージ公ハ會衆ニ向テ演說シテ曰ク若シ諸君ニシテ無益ナル議論ト緩慢ナル反對ニ時日ヲ費サント欲スル乎乞フ他ノ總理ヲ撰メヨト又公言シテ曰ク余ハ同志者二万人ニ伴ハルニアラズンバ此請願書ヲ捧クルコトナカル可シト斯クテ六月二日青色ノ帽章ヲ附シタル請願人及ヒ其他ノ群衆ハセントジョージ、ゴルドン公ニ集會シ是ヨリ各路相派レテウエストミンスタトニ進行シ兩院議員ノ未ダ會合セサルニ先チテ

六月二日ウエストミンスタ
ノ騷擾

早く既ニパレンデスヤトテ圍繞セリ貴族ノ馬車ヲ驅リテ
 上院ニ出勤スル途中ニ於テ暴民ノ爲メニ襲撃セラレ又ハ
 瓦石ヲ亂投セラレタル者甚ク多クボストン公ノ如キハ其
 馬車ヨリ引落サレ辛クシテ此群衆ノ中ヨリ脱レ出テダリ
 下院ニ於テハ此群衆議員ノ休息所及ヒ諸所ノ道路ヲ壅塞
 シテ議場ノ入口ニマテ押寄せ來リ而シテ議員ヲ攻撃シ及
 ヒ困頓セシメタルノミナラス夫ノ青色ノ帽章ヲ議員ニ被
 ラシメ且ツ彼等ニ迫マリテ世何ノ羅馬教アランヤト叫呼
 セシメタリ

此ノ如キ不法ナル集會ノ起ルベキトニ關シテハ豫メ充分
 ナル通知アリシト雖モ一國ノ公安ヲ維持シ議院ヲシテ脅
 嚇ヲ免レシムルコトニ付テハ何等ノ準備モアラズシテ上院

暴徒國會ヲ圍

議會ノ一

議員ヲ如キハ殆ト生命ヲ危フシ只六名ノ巡查ガ己等ヲ保
 護スルヲ見タルシニ下院ハ暴徒ノ圍繞スル所トナリシト
 雖モ其門衛ヲ堅ク彼等ノ侵入ヲ防キタリキ此騷擾方ニ酣
 ナルノ時シヨトシヨルドン公ハ進テ夫ノ請願書ヲ呈出シ
 直ニ委員ヲ設テ之ヲ討議セシメテ發議シタリト雖ト
 モ彼等如キ暴徒ヲ群集スルニ際シ斯ル發議ノ採用セラル
 スキニアラサシム請願書ヲ討議ハ之ヲ他日ニ延期スベシ
 トシ修正動議ヲ起スモノアリ此動議ニ關シ議論ヲ連續セ
 ル間ハ騷擾シテ於ケル騷擾モ亦連續シテ或時ハ
 議場ヲ窓ヲ亂敲シテ議事ヲ妨テ暴徒等ハ殆ト堪ユル能
 ハスシテ議場ニ侵入セシトスルノ勢アリ左レハ議員等ハ
 客々防禦ヲ用意ヲ爲シ時宜ニ依テハ劍ヲ以テ其ノ通路ヲ

開カント氣構ヘタリ此ノ間此騒擾ノ發頭人トモ云フ可キ
 シヨトシ公ハ屢々議員休息所又ハ傍聽席ナル樓梯ノ頂上
 ニ登リテ其請願書ヲ殆ト廢棄シ命運ヲ迫レルコトヲ告ケ且
 ツ其反對者ノ姓名ヲ枚擧シテ群集ヲ知ラシメ而シテ公ノ
 親戚タルコロチルモリレリ氏カ劍戟ヲ揮フテ公ヲ恐嚇セ
 シマテハ決シテ此暴行ヲ止メザリキ既ニシテ議長ハ可否
 ノ決ヲ採ラシコトヲ議場ニ告ケタル時警官ハ議員休息所ニ
 群集セル暴徒ヲ退去セシムルコト能ハサル旨ヲ報告シテ
 ルヲ以テ止ムヲ得ス久シク可否決ヲ猶豫シタリシガ遂ニ
 一隊ノ陸兵議院ニ到着シテ亂民ヲ追散スルニ及ヒ始メテ
 可否決ヲ採リ以テ議院ヲ閉會スルコトヲ得タリ
 當時ウエストミンストロノ景况ハ甚ク醜陋ナリト雖モ是

倫敦ノ一揆

只一週日ノ間倫敦ヲ騷擾セシメタル一揆及ヒ放火ノ前
 兆タルニ過キサリキ六月六日ハ議院ニ於テ新教徒ノ請願
 書ヲ討議スヘキノ日ナシバ再ヒ彼等ガ同院ニ向テ暴行ヲ
 加フルコトヲ防カンカ爲メ種々ノ方法ヲ用ヒタリト雖モ然
 カモストトモント公ハ群衆ノ攻撃ヲ受ケテ其馬車ヲ粉
 塵セラレボルク氏ハ一時暴徒ノ手ニ拘ハレドトモノグ街
 ナルノトリス公ノ官宅モ亦暴徒ノ襲撃ニ遭ントシタリ然
 レモ下院ハ其特權ヲ保持センガ爲メ其暴動ノ鎮定スルニ
 至ルマテ此ノ請願書ヲ討議ヲ延引スルノ決議ヲ爲シタリ
 然ルニ此群衆ノ暴動ハ政府及ヒ警察官ノ怠慢ニシテ且ツ
 臆病ナルニ因リ愈々其勢ヲ増加シ遂ニ倫敦全府ヲ燒燼セ
 シト脅嚇スルニ至リタリ即チ羅馬加特力教ノ寺院ヲ燒キ

牢獄ヲ毀テ罪囚ヲ釋放シ警察官及ヒ政府官吏ノ住宅ヲ破壊シ彼ノ尊敬ヲ可キマシメシテ其ノ居宅ノ如キハ其書冊及ヒ命價ス可ラサル記録ト共ニ暴徒ノ爲メニ灰燼ニ歸セシメテ以テ彼等ノ英蘭銀行ノ如キモ殆下其災ヲ被ラントシ府内ノ各市街ニ到ル所醉狂ノ放火人ヲ以テ充滿シタリシガ遂ニ國王ノ大膽ナル決斷ニ依リテ此騷亂ヲ鎮定スルヲ得タリ王ハ曰ク我英國中少クモ其ノ義務ヲ盡ス可キ一名ノ警察官アルナラント即チ王ハ直ニ命ヲ下シテ一篇以テ布告ヲ發セシメ而シテ國王ノ官吏ハ暴徒ヲ鎮定スベキヲ命ヲ受テ陸軍モ亦文官ノ指揮ヲ待タズシテ暴徒ヲ處分スルヲ命ヲ受ケタルコト天下公衆ニ告知シテ其實ニ兵士ノ舉動ニ敏捷活潑ナル流血ト斬殺トヲ以テ暴徒ヲ一掃シ

陸軍兵士ノ舉動

然ルニ陸軍ハ文官ノ囑託ナキニ國事ニ干涉スルハ正當ナルヤ否カノ一事ハ其后議論ノ問題トハナレリ然レドモ公ハ斷言シテ曰ク暴徒カ公然反逆暴動及ヒ一揆ヲ起スツ時ニ當リ彼等ニ抵抗スルニ英王陛下ノ臣民タル者ノ當ニ盡スベキノ義務ナリ而シテ此義務ハ公民ト同様兵卒モ亦盡サハル可シサルモノナリ即チ前ノ布告ハ此ノ道理ニ基キテ適正ナルモノトセラレ陸軍ノ舉動モ亦法律上正當ナリト明告セラレ斯ノ如クシテ國王ノ權力ハ確乎動ス可ラサル者ト認諾セラレタリ蓋シ騷亂ノ際行政官ハ之ヲ鎮壓スルニ必要ナル權力ヲ有セサル可ラサルコトハ世人ノ一般ニ承認スル所ナリ然レドモ此權力ハ果シテ謹慎ヲ以テ

千七百八十七

用非ラレシ乎之ヲ適切ニ利用スルハ流血ノ慘狀ヲ見ル
 可クシテ數日ノ無政及ヒ暴動ヲ鎮定シ得タルト雖モ其
 緩慢ニシテ且ツ猛激ナル運用ニ遂ニ騷亂ヲ害シ加フルニ
 人民トノ慘激ナル軋轉ヲ以テスルニ至リタリテ其
 其原因ノ卑シムヘクシテ而カモ恐嚇ト猛激トヲ以テ指導
 セラレタル騷擾ノ結果ハ實ニ此ノ如クナリ此愚鈍ニシ
 テ且ツ大罪アルニ揆ノ巨魁（按シヨリシヨルハ幸ニ國事犯
 ノ罰ヲ免レタリト雖モ其後數年ニシテ讒謗律ニ觸レテ殘
 刻ナル刑ニ處セラレ遂ニ之カ爲メニ三ニ三ニ於テ
 死去シ且ツ許多ノ暴徒モ亦各々刑臺上ノ露ト消ヘテ彼等
 亦前日ノ罪惡ヲ賠償シタリト雖モ其後數年ニシテ博愛主義ノ一社團起リ奴隸賣買ヲ禁遏ス

年ノ奴隸貿易

ルヨリテ努メタリ蓋シ斯ノ如キノ事ハ殆ド政治上ノ境界ヲ
 脱出シタルモノニシテ憲法ノ變更ヲ求ムルニアラズ一個
 ノ利益ヲ進ムルニアラズ偏僻ノ心ヲ満足セシムルニアラ
 ズ一國ノ幸福ニテ増進スル者ヲ以テス其目的トスル所ハ
 海外万里ノ異邦人ヲ惠愛スルニアリ開化人種ノ同情ヲ感
 スルヨリハ寧ロ厭忌ヲ覺合ル所ニ劣等ノ人種ノ利益ヲ計畫
 スルニアリ而シテ之ヲ鼓舞勵獎スル唯一ノ刺激物ト博愛
 ノ情ト基督教以テ慈善心トアルツミナリ之ニ反シテ奴隸賣
 買ハ國內ノ最ニ強力ナル民族即チ商人船主農業者ハ熱心
 ニ贊助スル所ナリ是ノ故ニ之ヲ廢止禁遏セシム欲セハ之
 ニ先チテ其賣買ニ依テ生スル非常ノ利益ヲ拋棄セサル可
 カラズ愚蒙ヲ教示シテ事物ノ正否ヲ判別セシメサルハカ

ラス偏僻ト冷淡トヲ矯正セサル可ラス輿論ヲ正路ニ誘導
 セザル可ラス而シテクラングヰルシヤコフウオルバ
 オイシクシテクソクソク及ビ其他ノ博愛者ハ各々全力ヲ奮
 フテ此大業ニ當リ實ニ此主義ヲ如ク強大ナル熱心ト活
 潑トヲ以テ贊助セラレタル者ハ決シテ之アラサルナリ即
 チ此協會ハ貴賤ニ論ナク凡テノ階級ト凡テノ宗教家ト依
 リテ組織セラレタリ此協會ハ奴隸貿易ト不正トシテ且ツ
 慘刻トシテ証明セシカ爲メ其實證ヲ四方ニ集メ又其慘
 阻ノ狀ヲ講演論議シテ嘗テ疲勞倦厭ノ色アルナク慷慨ノ
 士人ハ皆其ノ鬱勃タル熱情ヲ以テ是非ヲ人民ノ宗教心ト
 愛情トニ訴ヘタリ而シテ其ノ熱心ヲ溢ル、所時ニ或ハ法
 外危激ニ涉リテ世間ニ冷笑ヲ受ケタルコトアルモ其首領等

ガ高尚ナル目的ト正誠ナル感情ト懸河ノ雄辯トハ世ノ尊
 敬ヲ感稱トヲ博シタリ又奴隸賣買ノ不正ヲ論シタル小冊
 子ハ殆ト毎戸ニ見サルナク各演壇ト各講筵トハ黒人ヲ災
 害ノ中ヨリ救出セサル可ラストノ聲ヲ以テ相反響シ請願
 書ハ續々奉呈セラレテ諸大臣及ビ國會ハ漸ク之レカ調査
 ニ着手スルニ至レリ然レモ此ノ如キノ事業ハ決シテ迅速
 ニ成功ス可キ者ニハアラサルナリ此ノ如キノ主義ハ一時
 ノ急激ナル熱心ヲ以テ遂行セラルベキニアラサルナリ况
 シヤ恐嚇手段ニ於テチヤ蓋シ其商賣ノ果シテ正當ナルヤ
 否ヤハ國民ノ良心ニ依リテ靜カニ之ヲ判斷セシメサル可
 ラス而シテ今ヤ既ニ此ノ機會ニ達シ得タリ左レハ國會ハ
 速ニ其暴白セラレタル凶害ヲ滅殺スルトニ從事シ其後ニ

千七百六十年
ヨリ同九十二年
年ニ至ル迄公
議興論ノ進歩
セル

十餘年ヲ經テ奴隸貿易ハ全ク禁斷セラレタリ即チ此ノ贊
稱不可キ奴隸貿易廢止ノ主義ハ狂暴ト憤怒ニ倚ラス腕力
恐嚇ノ力ニ賴ラス惟正理ト熱心ト人間ノ最良ナル感情ト
ニ依テ遂ニ社會ヲ支配スルニ至リタリ
此時代ノ始メ三十年間ノ如ク言論ノ進歩セシトハ未ダ嘗
テ之アラサルナリ政府内ノ議會ニ於テ彼レカ如ク忌憚ナ
ク又彼レカ如ク數々人民ノ發言ヲ聞キタルコトハ未ダ嘗テ
之アラサルナリ實ニ公議興論ハ當時狹隘ナル代議制ノ缺
點ヲ給補スルコトヲ始メタリ然レモ近頃纔ニ得タル言論ノ
自由殆ト斷絶セラレントスルノ惡日ハ今ヤ方サニ近キタ
リ即チ一方ニ於テ粗暴ニシテ迷頑ナル共和政府ハ正當ナ
ル自由ノ區域内ニ侵入シ他方ニ於テハ此危險ノ豫察ヨリ

千七百九十二年
年共和主義ノ
出版物

生スル疑懼心ハ方ニ人權ニ不利ナル反動ノ時代ヲ誘起シ
タリ
千七百九十二年ニ於テ佛國革命ノ反影ハ一方ニ於テハ危
懼ト厭忌ヲ多數人民ノ腦漿ニ浸染セシメ他ノ一方ニ於テ
ハ夫ノ普通撰擧ト毎年改撰ノ國會ヲ主張スル所ノ輕躁過
激ナル小黨派ヲシテ頻ニ佛國主義ヲ感稱シ彼ヲ猛烈ナル
巴理ノシヤコピン黨ニ同感ヲ表セシムルニ至リタリ此ノ
黨與ハ反逆ノ精神ヲ含蓄スル者ト思考セラレタル共和主
義ノ説ヲ小冊子論篇及ヒ新聞紙ニ掲ケテ廣ク之ヲ世ニ流
布セシメタリシガ此等ノ二三ハ其後己レ一個ノ感情ヲ公
言セル著述者等ノ著作ナリシ然レモ多クハ共和主義ノ社團
ガ佛國ト相應シテ廉價ニ散布シタル者ニシテ彼ノペーシ

千七百九十二年五月二十一日ノ布告

氏ノ筆ニ成レル人權ト題シタル書ノ第三篇ノ如キハ此等
ノ詭激ナル出版書中最モ世ニ愛讀セラレ又最モ激烈ナル
者ノ一ナリキ
是ニ於テ乎政府ハ特ニ詭激有害ナル出版物ノミヲ擇ミテ
之ヲ責罰スルコトヲ爲サズ一ノ布告ヲ發シテ斯ル危害ナル
出版ニ惑フ可ラサルコトヲ人民ニ諭告シ又警察官ニ向テハ
此等ノ著者出版者配付者ノ探偵ヲ命令シ地方官及ヒ其他
ノ官吏ニ向テハ反逆ト暴動ト鎮壓ヲ令シタリ實ニ一千七
百九十二年五月三十一日ナリ此公布案ノ一タヒ國會ニ提
出セラル、ヤダレト氏ヲオグス氏及其他ノ反對黨員ハ痛
ク之ヲ攻撃シ政府ハ既ニ法律ニ依テ自由ノ妄用或ハ人民
不敬ノ舉動ヲ鎮壓スヘキ充分ノ權力ヲ有スルニ今又此ノ

千七百九十二年十二月十八日トーマス・ペ
ーソン氏ノ審問

如キノ布告ヲ發スルハ徒ニ道理ナキ嫉妬ト驚惶ヲ惹起セ
シムル者ナリト主張セリ
然レモ上下兩院ハ國王ノ勅諭ニ對スル答詞ニ於テ共ニ此
布告ノ目的ヲ贊稱シ立憲政體ヲ翼賛スル臣民ノ感情ヲ微
弱ナラシムルノ計畫ハ其何タルヲ問ハス大ニ之ヲ非難セ
リ
居ルコト未タ久シカラスシテトーマス・ペーソン氏ハ罪アリト
シテ公訴セラレエルスキン氏之レカ辯護人タリ而シテ國
王及ヒ皇太子ノ不愉快モ氏カ朋友ノ忠告モ公衆ノ囂々々
ル罵詈惡口モ氏ノ毅然トシテ辯護人ノ義務ヲ盡スコトヲ妨
クル能ハサリキ元來彼ノ如キ書冊ヲ正當ノ者ナリト曲庇
スルハ到底能クシ得ヘカラサル所ナリ然レモエルスキン

氏ハ主張シテ曰ク英國ノ法律ニ從ヘハ著述者ハ憲法及ヒ政治ニ關スル道理ヲ國民ニ講明スルノ自由ヲ有スルモノナリ唯其著述者ガ罪ヲ免ル可ラサルハ人民ヲ煽動シテ法律ニ背カシメ現ニ生存セル官吏ヲ非難スルノ場合ノミト氏又曰ク言論ハ自由ナリ唯法律上ニ責任ヲ有スル者ハ行爲ノミナリト而シテ氏ハ自ラペーソン氏ノ説ヲ非トセリ然レトモペーソン氏ハ之カ爲メニ罰セラルヘキニアラス何トナレハ假令陪審官ガ學術上ノ論說トシテハ之ヲ非難スルモ此論說ノ性質及ヒ之ヲ起草セル意志ニシテ有罪タルニアラサレハ決シテ違法ノ者トナス可ラサレハナリ且ツ氏ハロック、ミルトン、ボルク、パーレー、其他有名ナル著述家ノ言ヲ引キ來リテ我憲法ニ關スル學術上ノ論說ヲ讒謗ノ罪ナク

政府ノ驚惶

シテ如何ナル區域ニ及ホシ得ルカヲ明示セシニ拘ハラス此詭激ナル著述者ペーソン氏ハ遂ニ有罪ト決斷セラレタリ然レトモ氏ノ辯護人カ熱心ニ論述シテ時人ノ一聽ヲモ博スル能ハサリシ此言論上ノ原則ハ言論自由ノ依テ以テ休止スヘキ根基トシテ爾後久シク承認セラレ、者ナリ此間佛國ノ革命益々進歩スルト英國共和黨ノ愈々放縱ナルトニ依リ政府ガ共和主義出版及ヒ言論ヲ恐怖スルノ情一層甚シキヲ加ヘタリ他ノ目的ヲ以テ組成セラレタル諸協會モ今ヤ佛國ノ革命黨ニ向テ同情ヲ表シ且ツ之ト親睦ヲ結ヒテ同國ノ國民義會ニ書ヲ贈リ巴理ニ於ケル政治上ノ諸協會及ヒ政治家ト通信ヲ往復シ感情言語演說講談ノ軀裁ニ至ルマテ一ニ佛

共和主義ノ社

革命協會

國ノ流行ヲ摸擬スルニ至レリ而シテ夫ノ革命協會憲法改正協會及ヒ倫敦通信協會ノ如キハ此等諸協會中其ノ最も著名ナル者トス

革命協會ハ殆ト一世紀以前即チ千六百八十八年ノ英國革命ヲ紀念センカ爲メニ設立シタル者ニシテ久シキ以前ヨリ存在セル者ナリ此會ハ年々十一月四日ニ集會スルノ先例ニシテ其集會ノ重モナル目的ハウイリアム王ガ陪審裁判ト出版ノ自由トヲ許容シタルヲ祝スルニアリ紀元千七百八十八年十一月四日ハ宛モ英國革命ノ一百年紀ニシテ全國各黨ノ人皆之ヲ祝賀セリ而シテ此年ノ革命協會ニハ當時ノ國務卿其他ノ名士モ亦臨席セリ然レモ今ヤ世ノ激勢ハ此協會ノ爲メニ一新生活ヲ開カントスルニ至レリ

憲法改正協會

即チ紀念ノ感情ハ何レノ時カ政治的激動ノ爲メニ消散シ去リ佛國革命ノ實例ハ殆トウイリアム王ノ名ヲ忘失セシメタリ

又憲法改正協會ハ政治上ノ權利ノ何物タルヲチ人民ニ教示シ國會改革主義ヲ擴張センカ爲メ千七百八十年ニ組織セラレタルモノニシテリツチモンド公フオックス氏ピット氏及ヒシエリダン氏モ最初該會員タリシガ其後間モナク脫會シタリ然レモウヰヰル氏マシヨルカイトライト氏ホルンツトク氏其他數名ノ熱心ナル政治家ハ普通撰擧ヲ主張シ匿名ノ論篇ヲ頒布シテ以テ其ノ協會ヲ維持センヲ勉メタリ蓋シ該會ハ全ク埋没シテ世ニ知ラレズ其資金モ亦僅少ニシテ殆ト絶滅ノ有様ナリシガ佛國革命ノ刺激ニヨ

倫敦通信協會

リテ僅ニ其滅絶ヲ免ル、ヲ得タルノミ
 倫敦通信協會ハ重モニ職工ヨリ成ルモノニシテ佛國革命
 ノ刺撃ニヨリ人心頗ル激動スルノ際ニ設立セラレタリ而
 シテ此會ノ目的トスル所ハ凡テ社會ノ痛苦ヲ一掃シ政治
 上ノ惡弊ヲ矯正シ特ニ普通撰擧法ヲ行ヒ毎年改撰ノ國會
 ヲ設ケントスルニアリ此等ノ目的ヲ遂行スルハ先ツ全國
 各協會ヲ結合シテ一致ノ運動ヲナスニアルヲ以テ此協會
 ハ只英國ノ各政社ト通信ヲ往復スルノミナラス遠ク佛國
 ノ國民議會及ヒ巴理ノシヤコボン黨員ト交通セリ此會ノ
 首領ハ名譽ナキ人ニシテ多クハ無學ノ者ナリシカバ從テ
 協會全躰ノ舉動モ亦激烈ナリト云フヨリハ寧ロ法外ニシ
 テ且ツ蒙昧ナルヲ以テ有名ナリ而シテ彼等ハ其主張スル

所ノ普通撰擧論ニ加味スルニ英人ノ感情ト英國自由ノ特
 性トハ全ク無關係ナル空理ト國民議會ノ諺トヲ佛國ヨリ
 假リ來リ而シテ其會員ヲ公民ト稱シ國王ヲ行政長ト呼做
 セリ

是等ノ協會ハ普通ノ感情ニ刺激セラレテ盛ニ通信ヲ往復
 シ并ニ共和主義又ハ反逆ノ性質アル許多ノ決義及ヒ意見
 書ヲ刊行セリ蓋シ此諸協會ノ荒唐不稽ナル計畫ハ其下
 流ノ政治家ヲ迷惑セシニモセヨ徒ニ自由ノ眞義ヲ危フセ
 ルニ過キスシテ彼等ハ常ニ民友協會及ヒ當時ノ熱心ニシ
 テ然カモ沈着ナル改革者ノ攻撃スル所トナレリ即チ着實
 家ハ彼等ヲ厭忌シ臆病者ハ彼等ノ舉動ヲ見テ大ニ驚愕セ
 リ而シテ若シ我輩ヲシテ謂ハシメバ當時政府ガ嚴重ナル

處置ヲ施シタルモ亦彼等ノ舉動ニ由テ之ヲ促シタル者ナ
 リ
 通常ノ時ニ在リテハ是等諸協會ノ亡狀ハ世人ノ驚惶ヨリ
 ハ寧ロ輕蔑ヲ受ケタルナル可シト雖也元來左マテ恐ル、
 ニ足ラサル協會及ヒ煽動者が當時佛國ニ於テ非常ノ權勢
 ヲ得タルヲ以テ英國ノ諸協會モ亦實際ノ危險トハ比例ス
 可ラサルノ恐怖ヲ一般人民ニ與ヘタリ之ヲ要スルニ世界
 ノ歷史上前古無比ノ政治的震動アルニ當リテハ苟モ革命
 ノ前兆トナルモノハ其何タルニ拘ハラズ非常ナル危懼心
 ヲ作サシムルハ理ノ當サニ然ルベキ所ナリ
 當時ノ驚惶ハ過慮ニ出テタル者ニシテ大ニ事實ヲ誇張シ
 タルコトハ疑フ可ラス換言スレハ彼カ如キ驚惶ヲ起ス可キ

驚惶ノ誇張セ
 ラレタルコト

ノ原因ハ一モ之アラサルナリ是等ノ協會ハ如何ニ害惡ノ
 性質ヲ帶ブルニモセヨ只少數ノ會員ヲ有シタルノミニシ
 テ有力者ハ一人モ之ヲ贊成スル者ナク中等社會ハ彼等ヲ
 攻撃非難シ國民モ一般ニ彼等ヲ痛撃セリ要スルニ佛國ニ
 於テ革命ヲ發サシメタル原因ハ一トシテ英國ニ存在セサ
 リシナリ人民ノ忿怒ヲ招ク如キ專制政府ノ凶害ハ一モ存
 セサリシナリ之ヲ詳言スレハ我が英國ニハ彼ノ慘怛タル
 パスチールノ牢獄ハアラサルナリ專横放縱ナル貴族政體
 ハアラサルナリ貴族ト平民ノ間ニ殆ト渡ル可ラサルノ溝
 渠ハアラサルナリ言論ヲ束縛セル嚴刻ナル刑罰ハアラサ
 ルナリ我が英國人ハ他ニ對シテ自負スル所ノ自由ナル憲
 法ヲ有セリ我が整頓セル英國ニテハ秩序嚴然タル綱紀ヲ

以テ諸階級ノ人ヲ結合セリ而シテ久シク確定セル權利自由ハ國民ノ開明ト共ニ次第ニ進歩増長セリ佛國ニハ政府ト人民ノ間ニ權力ノ外一モ之ヲ結合スル者アラサルニ英國ニ於テハ權力ニ依リテ自由ヲ壓伏セサルノミナラズ權力ハ唯自由ヲ根基トシテ其ノ上ニ休止セリ英國人民ノ忠義心ニ救キ若シ一人立チテ反亂ヲ企ツルアラソカ數千人ハ生命ヲ棄ツルモ法律ト憲法ヲ防衛セント待チ構ヘリ此ノ如ク人民ガ秩序ヲ保持スルニ熱心ナルヲ敢テ主治者ニ讓ラサルハ彼ノ憫ムヘキ少數共和黨ノ誘引ニ反對スルノ明證ニシテ彼等ハ佛國革命ニ向テ同情ヲ表セサルノミカ却テ其流血淋漓タル慘狀ヲ厭惡シ其ノ交際及ビ宗教ノ放縱ニシテ檢束ナキヲ見テ大ニ戰慄セリ一言以テ之ヲ

千七百九十二年ノ強壓政畧

謂ハハ英國社會ノ中心ハ確固ナリ強健ナリ嗚呼近頃國王ヲ蒙塵ノ中ヨリ救出シテ其位ニ復セシメタル英國人民ノ忠肝義膽ヲ見タル者誰カ彼等ノ共和主義ニ浸染セルトテト疑ヒ得ベケゾヤ然レモ今ヤ英國人民ノ忠義心ハ全ク公衆ノ自由ニ反對セリ即チ共和主義ヲ恐懼シ怨惡スルノ切ナルヨリ強壓ト嚴刻ハ一國ノ秩序ヲ保維スルニ必要ナリトテ大ニ輿論ノ賛成ヲ得タリ殊ニ貴族等ノ驚惶ハ政府ヨリモ一層甚シクシテ熱心ニ共和主義ニ對スル反動ノ精神ヲ養成セリ元來彼等ハ出版及ヒ言論ノ勢次第ニ増進スルヲ嫉メリ他ナシ前三十年間政治上ノ激動ニ依リ其ノ威力ヲ墜シ尙ホ國會改革論ノ爲メニ頻ニ恐嚇セラルレハナリ然ルニ今ヤ之ヲ挽

回スルノ時來レリ人民ノ共和主義ヲ愛スルノ精神ハ餘リ
 テ奔放ニ失セシヲ以テ却テ一國ノ秩序ヲ維持セシカ爲メ
 ニハ全ク強壓セラレサルヲ得サルノ命運ニ迫リ普通撰擧
 毎年改撰ノ國會及ヒ人權ヲ置ケル聲ハ却テ人ヲシテ國
 會改革ノ危険ナルヲ思ハシメ且ツ如何ナル程度ノ改革ヲ
 望ム者モ總ヘテ革命者ナリトシテ其舉動ヲ探偵セラル、
 ニ至リタリ

ピット氏ハ沈着大度ニシテ事ニ當リ驚動セザルノ人ナリ
 氏嘗テボルク氏ガ佛國革命ヲ非難セルヲ冷笑シ其後英國
 ノ平和ト繁盛トヲ永ク維持シ得ルヲ信用スル旨ヲ演說
 シ佛國ノ恐ルヘキ政治上ノ危難ニ至リテハ之ヲ前知スル
 ノ明ナキ者ノ如クナリシガ今ヤボルク氏及ヒ國會多數黨

ノ強壓策ニ服從セリ而シテ氏ハ一方ニ於テ國會多數ノ驚
 惶ヲ沈靜シテ以テ大ニ有形無形ノ贊助ヲ得又自黨ノ勢力
 ヲ張リ敵黨ヲ擊破シテ同時ニ公衆ノ信用ヲ收攬セリ
 當時ハ實ニ未タ曾テ有ラサル國家治亂興廢ノ由テ岐ル、
 危機ナリシカハ當局ノ人ハ非常ノ注意ト剛毅トヲ要セリ
 國家ノ秩序ヲ保持スルノ重任ヲ負ヘル各大臣ハ一身ノ危
 險ヲ避ケンカ爲メニ適當ノ防衛ヲ爲スヲ怠ルヘカラス
 又公衆ハ素ヨリ彼ノ輕躁ナル反亂人ヲ憫マサルヲ以テ諸
 大臣ガ嚴重ニ此ノ反亂人ヲ責罰スル時ハ必ス一般公衆ノ
 贊助ヲ得サルハナシ然レモ政府ハ其新大法官ニシテ而カ
 モ變説者タルローポロト公及ヒ國王ノ法律官ニ助言セラ
 レ又ハ官吏ノ報告ヲ過信シテ重モニ勞力者ヨリ成立セル

彼ノ共和黨ノ小群ヲ見テ憲法ヲ壞亂スヘキ重大ナル反亂
 人ナリト輕信セリ是ニ於テ乎自由國ノ治者タル地位ニ在
 リナガラ恰モ暴君ノ如キ精神ヲ以テ人民ヲ畏縮セシメ我
 英國人民ノ沈着ナル判斷ニ依頼セズシテ其畏怖心ニ訴ヘ
 反亂ノ實動ヲ抑壓センカ爲メ言論ノ自由ヲ犧牲ニ供シタ
 リ常時ノ驚惶ニ依リテ示教セラレタル此干渉政畧ハ人民
 一般ノ感情ニヨリテ賞賛セラレシト雖モ一層自由ナル時
 世ニ逢遇セル後世子孫ノ熟考シタル判斷ニヨリテハ決シ
 テ正當ノ政畧ナリトハ認メラレサルナリ
 之ニ次テ政府ノ爲シタル處置ハ恐慌ヲ惹起スルモノト思
 考セラレタリ千七百九十二年十二月一日政府ハ一篇ノ布
 告ヲ發シ内地ノ亂人が在外人ト共同シテ煽起シタル騷擾

千七百九十二
 年十二月一日
 ノ布告

ノ精神甚ク危險ナルガ故ニ今ハ郷兵ヲ召集シテ之ヲ隊列
 ニ編制スルノ必要ナルヲ論示シ且ツ翌年一月三日マテ
 延會スヘキ國會ヲ十月十三日ヨリ開會ス可シト命令シタ
 リ
 國王ハ此國會ノ開會式ニ於テ爲シタル演說中同月一日布
 告ノ精神ヲ反復説明シ且ツ我幸福ナル憲法ヲ破壞シ及ヒ
 國家ノ秩序ヲ紊亂センカ爲メ在外人ト共同シテ謀反ノ企
 ヲ爲ス者アルヲ論告セリフオックス氏ハ熱心之ニ反對
 シ之ヲ名ケテ英國人民ニ堪フ可ラサルノ冤罪ヲ蒙ラシム
 ル者ナリトナシ且ツ論シテ曰ク是レ政府ハ人民ノ行爲ヲ
 支配スルノミナラス併セテ其思想ヲ支配セントスル者ナ
 リト實ニ氏ハ當時ノ言論ヲ鉗嚙スルヲナサスシテ各種

シ禍害ヲ除却セシメシメノコニ力ヲ盡セリ他ノ議員モ亦當時
 我國ノ形勢ハ政府ノ干涉ニ依リテ激動セラレタルモノニ
 シテ且ツ政府ノ云フ如ク危殆ナラサルコト主張シ内閣員
 ニ向テハ信ヲ人民ノ忠義心ト強健ナル判斷力トニ置キテ
 斯ル過慮ナカルヘキコトヲ請ヒ且ツ忠告スルニ其危懼心ヲ
 擲棄シテ沈靜寛大ノ政畧ヲ採ル可キヲ以テセリ然レモ上
 下兩院ニ於テ國王ノ勅諭ニ對スル答詞ニ就テ可否決ヲ取
 ルニ當リ議員ノ多數ハ常時ノ恐慌ノ爲メニハ人民ノ特權
 ヲ犠牲ニ供スルコトヲ猶豫セスシテ遂ニ國王ノ勅諭即チ感
 情ニ承認ヲ與フルニ至リタリ
 然レモ政府ノ布告ニ明記セラレタル如キ國難ノ證據一モ
 生セサルヲ以テシエリダン氏ハ二月二十八日國會ノ小會

千七百九十三年
 二月二十八日
 シエリダン

氏ノ動議

議ニ於テ一ノ尋問書ヲ提出セリ即チ氏ハ反亂ノ形跡ナキ
 ヲ主張シ且ツ政府ハ今將ニ開戦セントスル佛國ニ對シテ
 人心ヲ激發セシメシカ爲メ一ノ恐慌ヲ惹起シ之ニ由リテ
 國會改革ニ凝固セル人心ヲ他方ニ導引セントスルノ望ヲ
 有スルモノナリトテ大ニ之ヲ攻撃セリ而シテ之ニ反對セ
 ル議論中一モ反亂ノ明證ヲ舉ケタル者ナカリシト雖ヒシ
 エリダン氏ノ動議ハ決テ採ルニ及ハスシテ廢棄セラレタ
 リ

千七百九十三年
 三月フロス
 トノ審問

此ノ間出版者殊ニペーソン氏ノ著作出版者ニシテ刑辟ニ觸
 ル、者極メテ多ク詭激ナル演說モ亦嚴歷セラレタリ實ニ
 當時法律ノ嚴酷ニ施行セラレシコトハ唯二三ノ例證ヲ以テ
 之ヲ説明スルヲ得ベシ僅カ數年前マテ國會改革ノ計畫ニ

於テリツチモソド公及ビット氏ト同躰ノ働キヲ爲シタル
 有名ノ訟師ジヨンフロスト氏ハ珈琲店ニ於テ食後ノ談話
 ニ激語アリタルノ故ヲ以テ求刑セラレタリ氏ノ言語ハ言
 語其物ニ於テ假令詭激ノ傾キアリトスルモ惡意即チ反亂
 ノ意思アルトテ證スルニ足ルモノナシ之ヲ換言スレハ氏
 ノ言語ハ故意ニ出テタルモノト云フ可ラサルニモ拘ハラ
 ス遂ニ有罪ナリト判決セラレ六月間ノ禁錮及ビチヤリソグ
 クロッスニ於テノ負枷刑ニ處セラレ且ツ訟師ノ列ヨリ除名
 セラレタリ又洗禮ヲ授クル一宣教師ウインターボサム氏
 ハ二回ノ説教中ニ反逆ノ語アリトシテ公訴セラレタリ氏
 チ罪アリトナスノ證據ハ氏ノ爲メニ出テタル數名ノ證據
 人ニ依リテ明白ニ反證セラレ第二回公訴ノ時ノ如キハ檢

ウインターボ
 サム氏

千七百九十三年
 トーマス、ブ
 ライルラット
 氏ノ訴件

事ノ證據脆弱ニシテ氏ガ辯護ノ強健ナル裁判官ハ遂ニ公
 訴ノ棄却ヲ命令スルニ至リシト雖モ然カモ陪審官ハ二回
 トモ有罪ノ審斷ヲ下シ之カ爲メニ不幸ナル宣教師ハ四ケ
 年ノ禁錮百磅ノ罰金ニ處セラレ且ツ將來其行爲ヲ慎ム可
 キ保證ヲ出ス可シト命セラレタリ
 トーマス、ブライルラット氏ハ或ル客館及ヒ屠者ノ店頭ニ
 於テ談話中詭激ノ言語ヲ用ヒタリト公訴セラレタリシガ
 是レ亦其有罪ナリト云フノ證據ハ氏ノ辯護ノ爲メニ證據
 人ノ提出シタル反證ニ依リテ擊破セラレタリ然レモ陪審
 官ハ更ニ被告ヲ信用セスシテ之ヲ有罪ト判決シブライル
 ラット氏ハ遂ニ十二月ノ禁錮及ヒ百磅ノ罰金ニ處セラ
 レタリ

千七百九十三年十二月九日
ドクトル、ハド
ソン

倫敦珈琲店ニ於テ談話ノ間ニ詭激ノ言語ヲ發シタリトテ
ドクトル、ハドソン氏ヲ審問シタルノ一事ハ又英國人民ノ
驚惶心ト豫防心トノ深キヲ證明スル者ナリドクトル、ハ
ドソン氏ハ氏ト卓チ同フシテ飲食セル友人ヒゴツト氏ニ
己ノ熱心ト感情トヲ談話セシニ他客ハ之ヲ傍聽シテ亂
暴ニモ之ニ干涉シ遂ニ兩人ヲ警察官ニ引渡セシガ獨リハ
ドソン氏ノミ公訴セラレテ遂ニ有罪ト認定セラレニケ年
ノ禁錮及ビ百磅ノ罰金ニ處セラレタリ
此ノ如キノ刑罰ハ獨リ高等裁判所ニ限ルニアラスシテ國
王ノ布告ニ依リテ暴行ノ豫防ニ注意シ且ツ一般ノ驚惶ニ
由リテ充分ニ振盪セラレタル地方裁判官モ亦脆弱ナル反
亂ノ證據ヲ以テ自ラ満足シ其ノ熱心ニ依リ誤リテ無罪ノ

私立反亂鎮壓
會社

人ヲ罰スルコトアルモ高等官吏ガ其處置ヲ贊成スルコト必然
ナルヲ以テ敢テ懼ル、ニ足ラスト思惟セリ事情既ニ斯ノ
如クナリシカハ被告人ノ有罪タルト無罪タルトハ只驚惶
セル證人干涉ヲ好メル警察官及ビ地方裁判官ノ心意如何
ニ由リテ決シタリ
此ニ又出版ノ自由ト家内ノ安全トヲ危殆ナラシムル他ノ
一勢力コソ時勢ノ刺激ニ由テ生出セリ即チ反亂ノ性質アル
書籍或ハ言語ヲ探偵シ及ヒ之ヲ罰スルコトニ於テ政府ノ
幫助ヲナスノ目的ヲ以テ組織セラレタル私立會社ハ倫敦
府内及ビ全國各地ニ興起セリ而シテ夫ノ共和黨并ニ平等
說ヲ主張スル者ニ反對シテ自由ト財產トヲ保護スル會社
ト稱シタルモノハ即チ此等ノ嚆矢ナリトス多數人民ノ義

捐金ニ由リテ保支セラレタル此等ノ會社ハ時トシテハ無
 名ノ書簡時トシテハ其舉動ノ敏捷ナルカ爲メニ大ニ賞賛
 セラル、探偵人ノ報告ヨリ成立スル所ノ謀反ノ證據ヲ蒐
 集スルコトニ周旋盡力シタリ即チ彼等ハ假定ノ罪人ヲ罪ス
 可キ證據ヲ政府ニ供給シ并ニ政府ヲシテ其ノ刑罰ヲ行フ
 コトニ躊躇セサラシメシコトニ熱心シ宛然檢察官ノ如クナリ
 キ左レハ協會市場旗亭ニ於テ發シタル輕躁ナル言語ハ悉
 ク此等ノ會社ヨリ彼ノ妄信ナル驚惶者ニ報告セラレ而シ
 テ此ノ言語ハ皆發言者ガ其胸中ニ於テ政府ニ對シ不平ヲ
 懷クノ證據ト思考セラレタリ
 我英國法律ノ精神タルヤ國民ノ代表者タル陪審官ヲシテ
 愛憎ノ念ヲ挾ムコトナクシテ被告ノ有罪無罪ヲ決定セシメ

國王ニ委任スルニ法律ニ照シテ罪人ヲ處罰スルコトヲ以テ
 スルモノナルガ故ニ彼レガ如キ會社ハ固ヨリ國法ノ精神
 ニ背反スルモノナリ然ルニ今ヤ人民ハ激動ノ餘罪人ニ反
 對シテ國王ニ黨シ其犯罪ノ證據ヲ集メテ罪人ヲ豫判スル
 コトトハナレリ此ノ如キノ時ニ當リ此等會社ノ社員タル者
 何ソ能ク陪審官トナリ保安官トナリテ純粹正實ノ裁判ヲ
 幫助スルヲ得ンヤ殊ニ地方ニ於テハ裁判ハ其ノ當ニ進ム
 ベキ軌道ノ外ニ逸出スルノ危險アルニ至レリ即チ地方ニ
 起リタル謀反ノ訴件ハ此等會社ノ首領タル裁判官及ヒ該
 社員ニアラサルモ其裁判官ヲ知己隣人タル陪審官トニ依
 リ巡回裁判所ニ於テ審判セラレタリ蓋シ恐惶ノ時ニ方リ
 斯ノ如ク檢事裁判官及ヒ陪審官等ガ凡テ被告人ニ反對ス

蘇格蘭ニ於ケル共和主義

ルニ至リテハ誰カ能ク之ヲ信シテ其ノ裁判ヲ望ムモノアラシヤ
此間蘇格蘭ノ官吏カ佛國革命ニ依リテ惹起シタル驚惶ハ英國政府ヨリモ尙ホ一層ノ甚シキヲ加ヘタリ當時共和主義ノ改革ヲ希望セル諸協會ノ舉動及ヒ英倫蘇格蘭ノ各部ヨリ來集セル民友協會總代人ノ開キタルエヂンボロノ集會ハ蘇國官吏ノ危懼心ヲ増大セリ此等總代人ノ集會ハ毎年改撰ノ國會ト普通撰擧ヲ討議スルカ爲メナリシト雖此時ノ激動ハ彼等ヲ指導シテ他ノ諸協會ニ固着シタル粗暴ノ言語ト危激ノ舉動トヲ摸倣セシメタリ是ニ於テ平政府ハ共和主義ヲ攻撃シ反逆ヲ壓伏セント決定セリ然レモ恐惶ノ流行スル當時ニ於テハ裁判官スラ既ニ誤謬ニ陥リ

千七百九十三年八月三日
イル氏ノ審問

而シテ其ノ法律ヲ應用スルニ當リテハ裁判廳ノ信用ヲ損シ人民ノ感情ニ背戾スル如キノ嚴重ト慘刻トヲ以テセリ又行政官ニシテ裁判官ノ權内ニ侵入シ有害ナル出版ヲ罰スルノ權力ヲ掠奪スル者アリ適々裁判官ノ裁判スル所トナリタル者ト雖モ公平正當ノ裁判ヲ受ケタル者ハ決シテ之アラザルナリ
敏才技能アル年少ノ代言人トイマス、ムイル氏ハ國會改革主義ヲ擴張シ且ツ總代人集會ノ一員トシテ頗ル活潑ノ舉動ヲ爲シタルカ爲メ謀反ノ嫌疑ヲ受ケエヂンボロノ高等法院ニ於テ審問セラレタリ此審問中ニ起リタル種々ノ出來事ハ其裁判官ノ不正ニシ且ツ殘酷ナルヲ示スモノナリ

此等ノ裁判官ハ陪審官ノ斷決ノ正當ナルヤ否ヤヲ決定スルニ臨ミ英國憲法ノ完全ナルヲ佛國革命ノ恐怖ス可キヲ并ニムイル氏犯罪ノ甚々惡ムヘキヲ敷衍シテ最モ重キ謀反ノ罪ニ陷レノヲ勉メタリ彼等ノ眼中ニハ我制度ヲ改良スルノ計畫ハ悉ク犯罪タリシト明白ナリ又檢察官ニヨリテ命セラレ主任判事ニ依リテ撰拔セラレタル陪審官ハ孰レモ皆ゴールドスマス、ホールニ設置セラレタル協會員ニシテ彼等ハ既ニムイルヲ以テ憲法ノ仇敵ナリトシ其簿冊ヨリ彼レガ姓名ヲ削除セシ者ナリ故ニムイル氏ハ反對シテ曰ク此等ノ人ハ僻見ヲ以テ余ヲ有罪ナリト判決セシ者ナリ故ニ其判決ニハ服ス可ラスト然ルニ裁判官ハ之ニ答ヘテ曰ク此等ノ陪審官ヲ以テ陪審官トナス可ラスト

セハ我憲法ヲ維持セント誓ヒシ裁判官ノ判決ニ反對シテ可ナリト而シテ檢察官ノ提出セル證據ハムイル氏ノ演說ノ反逆ナルヲ證明スル能ハズシテ却テ此等ノ演說ハ秩序ヲ保持シ法律ニ服従ス可キ氏ノ熱心ヲ證明シタリ此審問中氏ハ常ニ裁判官ノ駁撃ト恐嚇トヲ受タリ氏ノ有罪ヲ證ス可キ證據ハ假令甚々價值ナキモ檢察官及ビ裁判官ノ採用スル所トナリ氏ノ利益トナルベキ證據ハ眞理ヲ屈伏セシカ爲メニ忙シク隱蔽セラレムイル氏ガ其身ヲ辯護スルモ彼等ハ之ニ耳ヲ傾クルヲナク汝ハ我カ職務ニ干涉ス可キ何等ノ權利ヲモ有セサルナリト謂ハレタリ裁判官ハ夫ノ古代ノ裁判ノ精神ヲ以テムイル氏ヲ反逆ト國難トヲ惹起ス可キ惡魔ナリト宣言シ且ツ此後反逆ノ嫌疑ヲ得テ

審判ニ付セラル可キファイシ、パルマー氏ニ宛テタル書簡氏ノ廢紙中ニ發見セラレタルハ則チ氏ガ犯罪ノ證據ナリト主張セリ

ムイル氏ハ才能アリ氣慨アル演說ヲ爲シテ自ラ一身ヲ辯護セシト雖ヒ遂ニ此牽強ナル訟告ニ依リテ抑制セラレ一モ之レカ爲メニ利益ヲ得ルヲ能ハス即チ氏ハ既ニ己レヲ有罪ナリト認定セシ人ニ向テ自ラ辯護シ居ルヲ知レリ

然レヒ氏ハ天下公衆ト後世子孫ニ其正邪ヲ訴ヘテ己レハ實ニ國會ノ改革ヲ發達セシムルニ盡力シタルヲ確メタリ

リブラツクスフィールド公ハムイル氏ノ罪ヲ證センカ爲メニ陪審官ニ告テ曰ク人心激動セルノ時ニ際シテ國會改良ノ必要ヲ説クハ即チ反逆ナリト此博學ナル裁判官ハ又國會

改良ニ關シ陪審官ニ演說シテ曰議員ヲ撰擧スルノ權利ヲ有スル者ハ唯土地所有者ノミ彼ノ動産ノ外一物ヲモ有セサル器々タル小民ニ向フテハ國民何等ノ關係カアルト法廷ノ情況實ニ此ノ如シ豈ニ亦陪審官ハムイル氏ヲ有罪ナリト斷決セリト記ズルヲ要センヤ而シテ今ヤ此等ノ裁判官ハ此レ囚人ノ罪ノ實ニ恐ル可キモノタルヲ更ニ回想スルニ至リタリヘン

ダーランド公ハ曰ク傍聽人がムイル氏ノ辯論ニ其鬱勃タル氣慨ト流麗ナル辯舌トハ感嘆セザラント欲スルモ得ザル所ノモノナリ(感服スルハ即チ人民ニ反逆ノ情アル證據ナリ)ト蓋シ公ハ之レカ爲メニムイル氏ノ刑ヲ重クス可ラザルヲ許セシト雖ヒ而カモ氏ヲ十四年ノ流刑ニ處シタリスウ井ントン公ハ殆ドムイル氏ノ

罪ト大逆ノ罪トヲ區別スルノ識ナク耶蘇教派ノ裁判官ニ
 モ似合ザル猛獍ヲ以テ言テ曰ク反逆罪ニ適應スベキ刑罰
 ハ拷問ヲ廢シタル英國法律中ニハ之ヲ求ムルモ發見ス可
 カラザルナリト而シテ公ハ羅馬律中ノ國事犯ノ刑ヲ參照
 シテ十四年流刑ノ裁判ヲ贊成シ且ツ曰ク我輩ハ國事犯罪
 ニ係ル刑罰中最輕ノモノヲ擇ベリトアベルクロムビー公
 シヤスチス、クラーク公ハマイル氏ガ死罪(反亂人ノ刑)ヲ免
 レタルハ非常ノ幸福ナリト稱シ殊ニクラーク公ノ如キハ
 氏ガ辯護ノ際傍聽人ノ感覺ヲ動カシタル事アリタルモ時
 ノ事情ハ氏ノ刑罰上ニ何等ノ關係ヲモ有スル者ニアラザ
 ルヲ許セリト
 嗚呼是レ法律ノ掌中ニ拘ハレタルマイル氏ハ輿論ニ反對

千七百九十三年九月十二日
 ファイシ、パル
 マー氏ノ審問

シテモ之ヲ處刑セサル可ラスト公言スル者ニアラズシテ
 何ソヤ夫レ斯ノ如ク公平ナル裁判ノ外觀スラ装フイナク
 シテマイル氏ハ假令不法ニアラズトスルモ不適當ナル慘
 刑ヲ蒙ムルコトナリタリ

マイル氏處刑ノ後數日ファイシ、パルマー氏ハ反逆ノ罪アリ
 トシテパルス巡回裁判所ニ於テ吟味セラレタリシガ其公
 訴ノ趣意ハ氏ガ國民自由之友協會ノ陳告書ヲ散布シタリ
 ト云フニ在リ此陳告書ノ語句ハ如何ニ危激ナリト云フモ
 其目的ハ唯國會ノ腐敗ト微弱ナルトハ萬災ノ因テ生スル
 泉源ナルヲ以テ之ヲ改良セントスルノ一事ニ止マレリ氏
 ハ審問ノ際マイル氏ノ如ク過刻ナル取扱ヲ受ケサリシモ
 而カモ其裁判ハ殆ト同一ニ不公平ナルモノナリ裁判官ハ

陪審官ノ決斷當ヲ得タルヤ否ヤヲ決定スルニ際シ何ノ猶豫モナクハルマーノ散布シタル陳告書ハ反亂ノ性質ヲ有スル者ナリト主張セリ而シテ之ヲ證センカ爲メ敢テ書中字句ノ真意ヲ枉ケ頗ル牽強附會セリ國王ノ證人等ハ本意ナガラ各自ノ證明ヲ爲セリ即チ其證明ニ據レバハルマーハ此陳告書ノ筆者ニアラスノ只之ヲ修正シテ其語句ヲ和ラケ後チ之ヲ印行シテ廣ク世ニ散布シタルハ明瞭ニシテ疑フ可ラザルナリハルマー氏ノ罪ハ反亂ナリトノ裁判官ノ見解ハ何等ノ價直ヲ有スル者ナルヤハアベルクロンビー公ノ略説ニ依リテ之ヲ知ルチ得ベシ公ハ曰ク諸君ヨ我英國ノ臣民ハ未ダ嘗テ普通撰舉權ヲ享有セサルナリ若シ彼等ニシテ此ノ權利ヲ享有センカ彼等ハ久ク真正ノ

千七百九十四
年一月六日及
ヒ七日ウ井リ

自由又ハ自由憲法ヲ有スルヲ能ハサルナリ是ノ故ニ人民ハ此自由憲法ヲ全ク紊亂破壊スルニ均シキ權利即チ普通撰舉權ヲ享有スベシトノ論説ヲ起草シ印行シ又ハ之ヲ公布シ得ベキヤ否ヤ此ノ事ハ諸君ノ宜ク深思熟考セサル可ラザル所ナリト裁判官ノ意見其レ此ノ如シ法律ハ國會改革論者ヲ反逆ノ罪ニ陷レタリトノ愁嘆ヲ聞クモ亦タ敢テ怪ムニ足ラサルナリハルマー氏ハ遂ニ有罪ナリトシテ七年ノ流刑ニ處セラレタリ而シテアベルクロンビー公エスグローブ公等ハ氏ノ罪殆ト謀反ニ近クシテ僅ニ死刑ヲ免ル、チ得タル者ナリトノ說話ヲ爲サ、ルニモアラザリキ此等ノ審判ノ後政府ハエヂンボローニ於ケル民友協會ヲ撲滅セント決心セリ元來該會ノ舉動ハ頗ル事實ヲ誇張シ

アムスカー
井ノグ氏ノ審問

テ政府ニ報告セラレタリシガ今ヤ其首領等ハ拘引セラレ其書類ハ悉ク沒收セラレタリ千七百九十四年一月該會ノ書記ウルリヤムスカーヅ井ノグ氏ハ反逆ノ罪アリトシテ審問セラレタリ是レ氏ハ既ニバルマー氏カ印行シ散布シタリト白狀シタル夫ノ人民ヘノ陳告書其他該會ノ諸事ニ關係セシカ爲メナリ既ニシテ氏ハ有罪ナリト判定セラレテ十四年ノ流刑ニ處セラレタリシガ氏ハ此裁判宣告ヲ聞クヤ叫テ曰ク「裁判官閣下余ノ審判ハ未ダ開カレサルニ早ク既ニ其ノ罪ハ確定セラレ此二日間ハ只之ヲ復習シタルニ過キササルヲ知レリ是レ余ノ實ニ愉快トスル所ナリ而シテ余ノ希望モ亦此他ニアラザルナリ」ト檢察官及ヒ裁判官ハ共ニ氏ノ罪ヲ前定セシヲ蔽フヲ勉メス却テ檢事長ハ

千七百九十四
年一月及ヒ三
月ニ於テマー
ガロット氏及

公然演說シテ曰ク唯英國總代人集會ノ名目ガ之ト共ニ反逆ノ實ヲ表スル者ナリ試ニ思ヘ此集會ハ何等ノ目的アリテ組織セラレタルゾ疑モナク普通選舉權ヲ得ルノ目的即チ他語ヲ以テ之ヲ謂ヘハ大英國ノ政府ヲ顛覆スルノ目的ニテ組織セル者ニアラズヤト而シテスカーヅ井ノグ氏モ亦ムイル氏ノ如ク其陪審官ガ「ゴールドスミス、ホーイル」協會ノ會員タル故ヲ以テ其判定ニ反對セシニエスグローブ公ハ之ニ答テ曰ク「此反對ハ即チ政府ヲ顛覆スルハ民友協會ノ目的ナリト被告ガ自白スルモノナリ」ト

倫敦通信協會ヨリエヂンポロイ民有協會ノ集會ニ派出セラレタルモリス、マーガロット氏及ヒシヨセフ、シエラ
ルド氏ハ共ニ國安妨害ノ演說ト該會ニ關係セル他ノ事件

シエララド
氏ノ處刑セラ
レタルコト
此等ノ審判千
七百九十四年
一月三十一日
二月二十四日
三月十日國會
ニ報告セラレ
シコト

ノ爲メニ公訴セラレタリシカ途ニ有罪ナリトシテ十四年
ノ流刑ニ處セラレタリ
此等ノ審判ニ附隨セル事情ト其處刑ノ法外ニ嚴刻ナルト
ハ國會ノ批難ヲ惹起セサラント欲スルモ能ハサルナリ
イル氏ノ訴件ハスタンホーブ公之ヲ上院ニ提出シハルマ
ー氏ノ訴件ハ氏一個ノ嘆願ナリトシテシエリダン氏之ヲ
下院ニ提出セリ
ムイル氏及ヒハルマー氏ノ疑獄事件ハ其後下院ニ於テ一
層激切ニアダム氏ノ論議スル所トナレリ氏ハ流麗ナル雄
辯ヲ以テ之ヲ論シテ曰ク「彼等ノ犯罪ハ只詐僞虛構タルニ
過キスシテ蘇格蘭ノ法律ニ依レハ決シテ流刑ヲ受クヘキ
者ニアラス」ト氏ハ又其審判ノ不正ナルヲ證セシガ爲メ審

問ノ際起レル數多ノ事情ニ注意ヲ喚ビ起シムイル氏カ審
問録ノ謄本ニ對シ一ノ動議ヲ提出セリ此時ウイングドハム
氏及ヒピット氏ハ此審問ノ手續ト判決ノ正當ナルコトヲ辯
護シシエリダン氏ワイトブレッド氏グレイ氏及ヒフオックス
氏ハ熱心之ヲ反擊セリ殊ニフオックス氏ノ如キハ悲憤激昂
ノ雄辯ヲ以テ法官ガ事實ヲ誇張シテ人ヲ罪ニ陷レタルコ
トヲ非難シ且ツ叫ビテ曰ク「嗚呼神ヨ此ノ如キ法官ヲ有セル
人民ヲ救ヘヨ」ト然レモアダム氏ノ動議ハ議員過半數ノ反
對スル所トナレリ

三月二十五日

四月十五日

アダム氏ガ下院ニ於テ蘇格蘭刑法ニ關シ動議ヲ起セル時
此等ノ訴件再ヒ偶然ニ討議ノ問題トナリ上院ニ於テモ亦
ロトダーデール公ノ動議ニ依リ此事ヲ痛論シタリト雖モ

囚人ニ對セル同情

皆何等ノ結果ヲモ生セザリキ
 此等ノ囚人ハ何レモ嚴刑ニ處セラレテ今ハ其冤枉ヲ免ル
 ノ道ナシト雖也而カモ彼等ノ艱難ハ一般人民殊ニ蘇國
 人民ノ強キ感情ヲ惹起セリコックバルン公ハ曰ク此等ノ審
 判ハ只民心ニ深く感銘セシノミナラズ苟モ思想ヲ有スル
 人々ノ肝膽ニハ皆之ヲ感セサルナシ蓋シ人民ノ不平心ヲ
 正當ナラシメタル者種々アルベシト雖也此等ノ處置ハ則
 チ其最タルモノナリト當時蘇國一般人民ノ心中ニ鬱屈セ
 ル此不平ノ感情ハ其後五十年ヲ經テ夫ノカルトンヒルニ
 於ケル冤死人ノ紀念碑ニ於テ公然發表セラレタリ
 此間英國ノ裁判所ニ於テ吟味シタル或ル謀反ノ訴件ハ司
 法ノ事務上ニ世人ノ冷笑ヲ招クノ原因トナリタリダニ

英蘭ニ於ケル他ノ謀反ノ訴

千七百九十四年二月二十四日
 日ダニール、アイザック、イトンノ訴訟

ルアイザック、イトン氏ハ人民ノ爲メノ政界ト題セル卑近ナル一冊子ヲ出版シタルカ爲メニ審問セラレタリ蓋シ該冊子中國王ヲ鬪鶏ニ比シタリト思ハル、ノ黥アレハナリ而シテ此ノ如キハ當時盛ニ行ハレタル賤シムヘキ公訴ノ特性ナリシガ遂ニ被告イトン氏ハ赦免セラレ公訴者ハ世人ノ冷笑スル所トナレリ

千七百九十四年四月
 マンチエスタ、ノト、イマス、ウオーカー、氏及ヒ其他ノ審判

千七百九十四年四月更ニ恐ルベキ種類ノ公訴ニ關シ審問ヲ開クトトナレリマンチエスタ、ノト、紳商トイマス、ウオーカー、氏外六名ハ憲法ヲ紊亂シ政府ヲ顛覆シ佛人ニ應援シテ英國ノ海岸ヲ襲撃スルノ隱謀アリトテ公訴セラレタリ此公訴ヤ政府が自ラ畏懼ノ中ニ在ルコトヲ暴白シ此審問ヤ政府が事跡ヲ過大ニスルノ亡狀ヲ發表セル者ナリ然ルニ此

千七百九十四

公訴ハ彼ノ賤ムヘキ證人トイマス、ダンナル者ノ證據ヲ基礎トシテ起シタル者ナルガ其虛妄ナルトハ實ニ明白ニシテ被告ハ直チニ無罪ナリトノ審斷ヲ受ケ却テ證人ハ偽誓ノ罪ニ處セラル、トハナレリ即チウオーカー氏ガ英國ノ政府ト憲法トヲ破壞顛覆スルガ爲メノ武器ナリト認メラレタルモノハ小兒ノ玩具ト氏ガ教會及王黨ノ一揆ノ襲撃ニ反對シテ其家ヲ防禦センガ爲メニ用意セル二三ノ火器ニ過キス蓋シ斯ノ如キノ事件スラ政府官吏ノ眼中ニハ尙ホ且ツ公廷ヲ煩ハスニ足ル可キ者トシタルハ當時政府カ頻ニ想像ヲ逞クシテ各人ノ動作ニ於テ隱謀及ヒ反逆ノ事跡ヲ發見スルトニ熱中シタルノ證據トナスヲ得ベシ

千七百九十四年國會々期ノ終リニ近キ頃迄ハ實ニ内閣ガ

年五月十二日
謀反ニ關スル
國王ノ敕旨

五月十六日

謀反ノ證據ヲ同會ニ提出シタルトアラズ然ルニ同年五月ニ至リ共和主義ノ諸協會員中稍ヤ勢力アルモノハ拘捕セラレ其書類ハ官沒セラレ國王ハ敕旨ヲ上下兩院ニ下シテ或ハ通信協會ノ書類ヲ兩院ニ提出セシムルトテ命令シタル旨ヲ報告セリ

下院ニ於テハ此等ノ書類ヲ特ニ設ケタル秘密委員ニ附シテ調査セシメタリシガ此委員ハ第一ニ憲法報知協會及ヒ倫敦通信協會ノ處置ヲ報告シ且ツ其意見ヲ吐露シテ曰ク兩會ノ此等ノ處置ハ代議ノ力ヲ下院ヨリ掠奪シテ己レ自ラ一國ノ立法ニ關スル凡テノ職掌ト權力トヲ握取センカ爲メニ大集會ヲ開クノ目的ヲ以テ實施シタル者ナリト又委員ハ報告シテ曰ク此等ノ協會ハ近頃其會員ニ配付セン

カ爲メ武器ノ準備ヲ爲ストニ汲々タリト下院ニ於テ此報告書ノ朗讀終ルヤ否ヤピット氏ハ直ニ起チテ其報告書ノ基礎甚ク確實ナルコトヲ簡畧ニ再演シ終リテ人身保護律ノ中止説ヲ提出シタルニ其ノ動議ハ速ニ上下兩院ヲ通過シタリ

五月十七日十一日及二十一日上院委員ノ報告

上院ノ秘密委員ハ又報告シテ曰ク英國ノ定法ト憲法トヲ破壊シ且ツ不幸ニモ佛國ニ流行シタル所ノ無政ト秩序ノ紊亂トヲ引入センカ爲メ一ノ謀反ハ既ニ企畫セラレタリト下院ノ委員モ亦第二ノ報告ニ於テ諸協會ト結合シテ武器ヲ密造シ國安ヲ害ス可キ他ノ計畫ヲ爲シ并ニ佛國ヲ模範トシテ種々ノ方策ヲ運ラス者アルコトヲ證明セリ翌日上院ノ委員モ亦重テ第二ノ報告ヲ爲セシガ其後兩院議員

六月六日下院秘密委員第二ノ報告

ハ國王ニ書テ上リテ諸協會ノ暴行ニ對スル憤激ト一國ノ憲法ト平和トヲ維持セントスルノ決心トヲ表白セリ當時自由言論ノ熱心ナル朋友ハ此一種ノ反逆即チ政治上ノ狂奔者ノ隱密ナル謀計ニ對シ毫モ同情ヲ表セスト雖此而カモ國民ノ忠實敦厚ト憲法ノ確固動カス可ラサルトニ依頼シ而シテ此等ノ危險ハ實際ヨリモ誇大セラレタルモノニシテ決シテ英國在來ノ法律制度ヲ破壊スルノ力アルモノニアラサルコトヲ主張セリ

千七百九十四年反逆的讒謗罪ノ吟味

斯ノ如ク危難ノ報告屢々發セラル、ニモ拘ハラズ英蘭并ニ愛耳蘭ニ於テ反逆的讒謗罪ノ告發ハ奇異ニモ甚ク不幸ナル結果ヲ生セリ即チ其罪アリトテ告發セルモノモ無罪放免ノ宣告ヲ受クルコト多ク眞ニ伏罪スル者甚ク鮮シ而シ

千七百九十四年
國事犯事件
ノ審問

テ其罪跡ノ證據ハ探偵人或ハ告發人ヨリ取ルモノ多キガ
爲メ人心恟々トシテ政府ヲ怨望非議スルノ狀勢ヲ來セリ
今ヤ其中心ニ於テ一國ノ秩序ヲ維持セントスルノ各級人
民モ權利自由ノ漸ク浸蝕セラル、ニ驚愕セリ彼等ハ讒謗
者ノ刑罰ヲ蒙ムル可キヲ希フト雖也而カモ探偵者ガ時
ノ激動ニ乘シテ私利ヲ其間ニ挾ミ動モズレバ家内生活ノ
秘密ヲ犯スコニ對シテハ最モ熱心ニ反對シタリ
今ヤ國安妨害ノ著述ヨリモ一層危激ナル犯罪ヲ強壓スル
ノ時至レリ即チ法律及ヒ憲法ヲ破壞セシトテ密ニ企圖セ
ル反逆的ノ會ヲ襲撃シテ其首領等ヲ法廷ニ拘引シタリ若
シ此輩ニシテ眞ニ國事犯ノ罪アラハ宜シク彼等ヲ罰スベ
シトハ當時良民ノ一般ニ希望セシ所ナリシト雖也然レ也

千七百九十四年
八月九兩月
ロバート、ワット
及ヒダビット、
ドローノ國
事犯審問

深慮遠謀アルノ人ニシテ自由言論ト政治的ノ協會社團ニ
慣ル、ノ人々ハ國民ノ自由權利ガ世間恐懼ノ犠牲トナル
ニ至ランコトヲ恐懼セリ

千七百九十四年ニ於テロバート、ワット、ダビット、ドローノ
二人ハ蘇格蘭ニ於テ國事犯ノ罪ヲ以テ審問セラレタリ即
チ彼等ニ對スル公訴ノ趣意ハ彼等ハ立法權ヲ篡奪シ兵器
ヲ掠取シ王威ニ抵抗スルノ目的ヲ以テ國民大集會ヲ開ク
ノ隱謀ヲ爲セリト云フニ在リシガ此企畫タル實ニ危險ニ
シテ二人共有罪ナルコトハ充分ニ證明セラレ且ツ其後ワッ
ト自ラ之ヲ白狀シタリ其白狀ニ依レバ彼等ハ英、蘇、愛、三國
ノ總代人ヲ招集シテ一大會合ヲ催フシ同時ニ起レル人民
ノ一揆ハ干戈ヲ以テ之ヲ保護スベク鎮臺兵ハ之ヲ壓伏ス

べく諸官省及ヒ銀行ハ之ヲ占領スべく并ニ國王ヲ要シテ
 内閣諸大臣ヲ解任シ國會ヲ解散セシムベキナリ此ノ驚ク
 ヘキ陰謀ハエヂンボロイニ於テ世人ノ曾テ其名ヲ知ラザ
 ル七人ニ依テ評議セラレタリシガ此七人ノ中探偵ワットハ
 即チ首領ニシテ職工ダビット、ドリーニハ其會計ヲ司レリ然
 ルニ七人ノ中一人ハ其後間モナク陰謀ノ評議會ヲ脱シ四
 人ハワット、ドリーニ二人ノ犯罪ヲ證明センカ爲メニ國王ノ
 證據人トナレリ即チ彼等ハ四十七本ノ長鎗ヲ製造セシト
 雖モ一モ黨與ニ配付セルモノナシ反逆ノ檄文演説并ニ罪
 スベキ陰謀ハ何レモ明白ニ組成セラレテ毫モ疑ヲ容ルベ
 キ所ナシ然レモ此等ノ囚人ヲシテ國事犯ノ罪ニ伏セシム
 ルコトヲ得タルハ唯彼等ガ國安ヲ妨害ス可キ危險ナル主義

千七百九十四
 年九月ノ小銃
 陰謀

ナ擴布セシニ因レリ彼等ハ各々別ニ審問セラレテ共ニ有
 罪ト認メラレタル後死罪ヲ宣告セラレワットハ遂ニ處刑ニ
 遇ヒタリト雖モドリーニハ陪審官ノ酌量ヲ乞ヒシニ因リ
 放免セラレタリ此審判ヤ始メテ國會ヲシテ陰謀ノ實在ヲ
 承認セシメタルモノニシテ此時マテハ此ノ如キ謀反ニ付
 キ爲シタル何等ノ告發モ嘗テ國會ノ承認ヲ得タルモノハ
 アラサリシナリ
 更ニ一層公衆ヲ驚動セシメタル重大ノ事件ハ當時發見セ
 ラレタル國王暗殺ノ陰謀ナリ此陰謀ノ黨與ハ彼ノ恐ルベ
 キ通信協會ノ會員ニシテ彼等ハ國王ヲ暗殺スルノ企ヲ評
 議セリ而シテ其暗殺器械ハ細管即チ空氣銃ニシテ彼等ハ
 之ニ依テ以テ毒矢ヲ王ニ放タンコトヲ計レリ左レバ此愚蒙

見處ト一般ナル陰謀ノ直チニ小銃陰謀ト命名セラレタル
モ亦怪シムニ足ラサルナリ當時人民ノ危懼ト忠誠トハ一
般ノ感情ヲ發起セズシテ却テ冷笑ヲ以テ掩ハレタリ然レ
ト此陰謀ノ發見ニ依テ激動セル慢罵嘲笑ノ波瀾未ダ沈靜
セサルニ先チテ一層重大ナル事件ノ審問ハ將ニ近ツカフ
トセリ蓋シ此審問カ單ニ被告人ノ生命ノミナラス行政官
ノ信用國會ノ才識及ヒ人民ノ自由權利ヲ消長セシムルノ
關係アルモノナリ

千七百九十四
年ノ國事犯

是ヨリ先キ五月國會ハ反逆ノ陰謀者アリテ現行ノ法律及
憲法ヲ紊亂シ而シテ近時佛國ニ流行シタル所ノ無政ト紛
亂トヲ引入セント企テタルヲ公布セリ十月ニ至リ此陰
謀者ノ巨魁ヲ審問セシガ爲メ特別委員ヲ撰定シタリシガ

當時大陪審官ハトーマス、ハーデイ、ジョン、ホルン、ツイク、
ジョン、セルウオール、其他九名ヲ以テ反逆ノ陰謀者ナリト審
斷セリ此等ノ人々ハ彼ノ國會秘密委員報告ノ趣旨トナル
ベキ陰謀ヲ企テ又彼レカ如ク大ニ政府ヲ危懼セシメタル
倫敦通信協會及ヒ憲法通信協會ノ會員ナリキ此二協會ノ
公然ノ目的ハ國會ヲ改革セントスルニアリシト雖ト此等
ノ囚人ハ國安ヲ妨害シ騷亂ヲ煽動シ國王ヲ廢シテ之ヲ弑
シ英國ノ立法院ト政府トヲ變革シ此等ノ逆謀ヲ成遂セン
カ爲メニ國民議會ヲ開キ此議會ヲ開カンカ爲メニ檄文ヲ
草シテ之ヲ一般ニ傳ヘ且ツ國王ノ權威ニ抵抗スルノ目的
ヲ以テ兵器ヲ備ヘタリトシテ公訴セラレタリ
革命以降今日ニ至ルマテ未ダ嘗テ此囚人ノ如ク反逆ノ公

訴ニ對シ己レヲ辯護スルニ於テ不利益ナル地位ニ立チシ者ハアラサルナリ國會ハ國中到ル所謀反ノ企既ニ熟セルトテ公然告知シタリシカ彼等ハ即チ今其謀反ノ罪アリトシテ公訴セラレタリ而シテ裁判長ユール氏ハ大陪審官ニ向テ囚人ノ罪跡ヲ講演スルニ際シ彼等カ政府ヲ顛覆セントスル反逆ノ證據トシテ近時ノ舉動ヲ引用シタリ

當時第一ニ審問セラレタル者ハ職工トウマス、ハーデイニシテ彼ハ平生製靴ヲ業トシ且ツ倫敦通信協會ノ書記ヲ務ムル者ナリシガ檢察官ハ日々證據ヲ提出シテ第一ニ此陰謀ノ存在セルト其性質トテ確カメ次キニ被告ガ此陰謀ニ關係セルトテ證明シタリ此證據タル既ニ國會ヲシテ危險ナル陰謀ノ存スルトテ承認セシメタル者ナレハ陪審官

千七百九十四
年十月二十八
日ハーデーノ
審問

ノ之ヲ認識スルトニ預メ心意ヲ傾クルハ自然ノ勢ナリ且ツヤ此陰謀ノ既ニ證明セラレタル以上ハ該陰謀ニ關係セル協會會員タル被告人ガ此全般ノ證據ノ中ニ網羅セラル、トテ免レント望ムハ蓋シ亦困難ナリト云フベシ被告人ハ只自己ノ言語動作ニ付テ審問セラル、ニアラスシテ其ノ協會全躰ノ運動ニ關シ責任ヲ擔ハサルヘカラザルナリ左レハ若シ協會ニシテ革命ヲ企テタリトセンカ彼レ亦タ反逆者タラザル可ラザルナリ若シ彼レニシテ有罪ト認メラレシカ此等協會ノ會員タル者焉ソ能ク安全ナルヲ得ンヤ

此審問ニ於テ提出セラレタル證據ニ依レハ彼等ハ強ク人民ヲ煽動シ不穩ナル言語ヲ用ヒ實行スヘカラサル改革ヲ

企テ廣ク通信ヲ往復シ并ニ人民ノ結合ヲ計リシコト明ナ
 リ實ニ此等協會ニ加ハレル人々ハ恐ラクハ騷擾ヲ惹起ス
 可キ許多ノ言語ヲ發シ及ヒ動作ヲナセリ然レトモ猛惡ナ
 ル反逆ニ近似ス可キ舉動トテハ曾テ之ヲナサルナリ彼
 等ノ重モナル犯罪ハ國會ヲ改革センカ爲メニ人民ノ大集
 會ヲ開カント勉メタルニ在リシガ國會ノ改革ト云フハ只
 外面ノミニ止リテ實際ハ政府ヲ顛覆スルヲ目的トスル
 モノナリトノ說アリ然レモ若シ彼等カ公言セル國會ノ改
 革ハ其真誠ノ目的ナリトセシニハ彼等ハ明白ニ何等ノ罪
 ナモ犯サルナリ何トナシハ則チ此ノ如キ目的ヲ以テ相
 結合スルコトハ既ニ先例ノアル所ニシテ法律上夙トニ正當
 ト認メラレ彼ノピット氏自身リツチモンド公及ビ在朝第一

流シ人々ハ實ニ此結合ニ加ハリタルコトアリ然レバ若シ
 被告ニシテ他ノ秘密ナル違法ノ企畫アリタリトセハ其外
 而ニ現ハレタル反逆ノ行爲ヲ舉ゲテ以テ此企畫ノ存在ヲ
 證明スルハ正ニ檢察官ノ爲サバル可ラザル所ナリ當時檢
 察官ノ請求ニ依リテ召喚シタル證據人ニシテ該協會々員
 タリシ者ハ多ク叛逆ノ陰謀ニ付テハ彼等ノ無罪タルコト
 主張シ其他ノ證據人ハ皆有罪タルコト主張セリト雖モ彼
 等ハ探偵人ニシテ且ツ告發者タリシ故ヲ以テ毫モ世人ノ
 信用ヲ得ルコト能ハザリキ

此ノ如キノ犯罪ヲ牽強スルハ唯反逆構成ノ主義原則ヲ非
 常ノ極端ニマテ推廣スルコトニ依リテノミ成シ能フ可シ
 モルスキン氏ハ曾テジョージゴールドン公ノ訴訟ニ於テ痛

快ニ此主義ヲ駁シテ成功ヲ奏シタリシガ今ヤ氏ハ再ビ此主義ヲ痛撃シホルン、ツーク氏ノ如キハ氏ノ演説ヲ評シテ千古磨セサルノ確論ナリト云ヘリ實ニ正當ノ評ト云フベシ而シテ被告ハ「デー」ガ遂ニ能ク無罪タルコトヲ得タルハ證據ノ不充分ナルニ因ルト雖モ抑々又此辯護人ノ熟練ト雄辯トニ依テ此結果ヲ見タルモノト云ハサル可ラサルナリ

國王ノ助言者ハ此ノ失敗アルニモ拘ハラズ更ニ「ジョン、ホルン、ツーク」氏ノ審問ヲ開クコトニ決定セリ氏ハ博學達識ノ士ニシテ且ツ才智アリ又徒ニ放言高談スルノ人ニアラス其ノ辯護ノ如キモ「デー」ノ辯護ヨリハ一層容易ナリシナリ從前ハ陪審官ノ公平ト獨立トハ何レノ點ニマテ依頼

スルヲ得ベキヤハ甚々曖昧ナリシ他ナシ國內到ル所盛ニ行ハレタル癖見ト權勢トノ外ニ獨リ陪審官ガ超然脱出スルハ殆ト望ム可ラサルノコトナレハナリエルスキン氏がホルン、ツーク氏ヲ辯護スルニ當リ前審問ノ時ノ危懼ヲ感セサラント欲スルモ決シテ得可ラサルノ事情アリ其故ハ人民ヲ保護スベキノ任ニ居ル所ノ下議院スラホルン、ツーク氏ノ非難者トナリ告訴者トナリテ簡單ナル訴狀ヲ編成シタレハナリ然ルニ今ヤ平時ノ如ク陪審官ハ依頼ス可キモノトナリタレバ其訴訟ノ結果モ亦甚々明カニシテホルン、ツーク氏ハ遂ニ無罪放免セラレタリ

政府ガ探偵人ノ不正ナル報告ヲ信據シテ根モナキ事ニ驚惶スルハホルン、ツーク氏ノ訴訟ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得

千七百九十四
年十二月一日
他ノ囚人ヲ解

ベシ即チ氏ガシヨイス氏ヨリ受取タル書簡中足下ハ木曜
日迄ニ準備シ能フヤトノ語アリシカバ此一疑問コソ何カ
反亂ノ事ニ關シタル者ナリト信セラレタリ然ルニ其後證
明セラレタル所ニ依レハピット氏ヨリ其親戚朋友從僕ニ與
ヘタル爵位官職及ビ年金ノ目錄ヲ調成スルトニ關シタル
者ニ過キザリキ氏ハ又冒險旅行者ナルゾー氏ト憲法協會
ニ於テ相見ルヤ之ニ戯レテ曰ク余ハ他人ガ足下ノ後ヲ踵
カント希フヨリモ一層遠ク足下ニ伴隨セント欲スル者ナ
リト然ルニ探偵人ハ此一言ヲ危險ナル陰謀ノ證據ナリト
シテ政府ニ報告シタリ
尋テボンチー、シヨイス、カイド、及ビホルクロフトノ諸氏モ
亦召喚セラレタリシガ檢事長ハ再度迄モ其提出セシ證據

放セルコト及セ
ルウオールノ
審問

審問ノ幸福ナ
ル結果

ノ信セラレザリシヲ以テ今ハ此等諸氏ヲ放免スルコトニ同
意セリ唯セルウオール氏ニ對シテハ他ノ特別ナル證據ア
ルヲ以テ之ヲ審問シタリシガ遂ニ又無罪放免スルニ至リ
タリ此最後ノ失敗ノ後最早何等ノ審問ヲモ開カズ且ツ特
別委員ヲ設ケテ審問セシメントシタル他ノ囚人ヲモ夫ノ
惡ムベキ協會ノ運動ニ關係シタル地方ノ諸囚徒ト共ニ凡
テ放免シタリ
此等審問ノ結果ハ最モ幸福ナルモノナリ何ソヤ曰ク若シ
囚人ニシテ有罪ト認メラレテ死刑ニ處セラレタリトセン
カ裁判不正ナリトノ感覺ハ恐ラクハ人民ヲ激動シテ危險
ナル舉動ヲ爲スニ至ラシメタルナルベシ自由言論及ビ集
會ノ權利ハ反逆ナリトシテ汚辱セラレタルナル可シ政治

上ノ自由ハ粉齏セラレタルナル可シ何人モ政府ノ復讐ヲ免ルハコト能ハザリシナル可シ然ルニ今ヤ然ラスシテ行政部ハ假令容易ニ驚惶セシト雖モ國會ハ假令容易ニ危險ノ成立スルコトヲ認メシト雖モ泰然トシテ確立セル司法權ハ毫モ蹂躪セラレザリキ英國ノ陪審官ハ恐惶ノ中心ニ於テスラ國王ト其ノ最賤ノ臣民トノ間ニ立チテ是非ヲ識別スルヲ得ルモノト承認セラレタリ而シテ人民カ其自由權ノ貴重スベキコトヲ忘レサル間ハ在朝ノ諸大臣モ亦其危險ナル進行ヲ制止セラレタリ要スルニ此等ノ審問ハ假令不得策ナリトスルモ亦之カ爲メニ幾分カ利スル所ナキニ非サルナリ即チ一方ニ於テハ恐惶者モ國家ノ危險ヲ輕シク信シテ徒ニ激動スルノ弊ヲ除キ他ノ一方ニ於テハ政治社

千七百九十四
年十二月三十
日國會ニ於テ
此等ノ審問ニ
付討論セルコト

團ト連結セル人民ノ狂氣亂暴無智及ヒ犯罪ハ之レカ爲メニ暴白セラレタリ
十二月ニ至リ國會ノ開會スルヤ此等審問ノ失敗ハ直チニ討論ノ問題トハナレリシエリダン氏ノ如キハ陰謀條例ノ嚴肅ナル讀會ニ於テスラ人身保護律中止案ノ廢止セサル可ラサルヲ主張セリ氏及ヒ他ノ反對黨ハ此等ノ審問ニ依リ陰謀ノ證據一モ信スルニ足ラサルコトヲ證明シ得タリト主張セシニ在朝諸大臣ハ飽クマデ之ニ反對シテ斯ノ如キノ結論ヲ承認スルコトヲ拒否セリ檢事長ハ主張シテ曰ク陪審官審斷ノ結果ハ唯無罪トシテ放免セラレタル人民ヲ同犯罪ノ爲メニ再タビ審問スヘカラサラシムルニ過キスト且ツ曰ク若シ陪審官ニシテ余ノ如ク能ク事情ヲ知悉シタ

ラシニハ決シテ余ト反對ノ審斷ヲ爲サバウシチラソトフ
 オックス氏ノ冷笑シタル此等ノ言語ハ直チニウイソドム氏
 ノ修正スル所トナレリウイソドム氏ハ「放免セラレタル罪
 人ノ無罪ヲ喜悅セヨ」ト反對黨ニ希望セシガ其演說中議長
 ノ爲メニ注意ヲ與ヘラソタルヲ以テ餘儀ナク之ヲ取消サ
 バル可ラザルニ至レリ
 其ノ後數日ヲ經テシユリダシ氏ハ人身保護律中止令ヲ廢
 スルノ動議ヲ起シタリ其ノ演說タル才智諷諫及ヒ人身攻
 撃ヲ以テ充滿セリ此日ノ討論ハ頗ル激烈ニシテユルスキ
 ン氏モ亦自ラ演說ヲ爲スニ至レリ氏ハ其ノ演說ニ於テ先
 キニ其ノ事迹存在セリト主張セラレタル反逆ノ陰謀ニ關
 シ囚人ノ悉ク無罪放免セラレタルハ則チ陪審官ガ全ク其

千七百九十五年一月五日

ノ罪迹ノ實在ヲ信セサルニ基由シタルコトヲ最モ明瞭ニ證
 示シタリ氏ノ議論ニ對シテ駁撃ヲ爲シタルモノハセルジ
 アントアデイル氏ナリシカ氏ハ反逆罪ノ告發ニ關シ下議
 院ハ正當ニシテ毫モ其方向ヲ誤ラサルモ陪審官ハ其ノ審
 斷ヲ誤リタルコトヲ證明セントカムルニ際シ大ニ聽者ノ贊
 賞ヲ得タリ蓋シ是レ自然ノ勢ト云フヘシフオックス氏ハ
 アデイル氏ノ演說ニ促サレテ吾人ノ爲メニハ甚々幸ヒナ
 ル反駁ノ演說ヲ爲セリ氏ハ曰ク學識アル紳士ハ陪審官ノ
 審斷ヲ誤レリトナシテ更ニ下議院ニ控訴シタリ然レモ余
 ハ陪審官ノ吟味ヲ尊重スルモノナリ紳士ノ演說ハ本夜當
 院ニ於テ吾人ノ憤怒ヲ招ク如キノ喝采ヲ得タリト雖モ若
 シ此演說ヲ他ノ陪審官ニ向テ爲サバ彼レ必ス「無罪ナリ」ト

千七百九十五年人身保護律中止令ノ繼行

ノ冷淡ナル言ヲ以テ之ニ應スヘシト此時内閣員ハ傲然トシテ沈黙シタルシガ頻ニ其意見ヲ聽カントテ迫ラレタルヲ以テ遂ニ起テテ人身保護律中止令ヲ繼行スルコトハ恐クハ實際ニ必要ナラント述ベリ此時シエリダン氏ノ動議ヲ賛成シタル者ハ僅ニ四十一人ニ過キザリキ此討論ニ續テ直ニ議院ニ提出セラレタルハ人身保護律中止令繼行案ナリ當時政府ハ先キニ提出シタル證據ノ外ニ國安妨害ノ新證據ヲ有セサルヲ以テ已ムヲ得ス國會又ハ裁判廷ニ於テ既ニ陳供シタル事實ニ依テ國安妨害ノ陰謀存在スルコトヲ證明セントシタリ政府ガ此等ノ事實ヲ信スルノ厚キ最早故ラニ審問ヲ要セサルカ如クニ思惟シテ頻ニ之ヲ主張シ之ニ反シテ他ノ一方ニ於テハ先キニ陪審官

千七百九十六年七月二十三日ヘンリー・レッドヘッド

ノ爲シタル無罪ノ審斷ハ是マテ行政部ノ提出シタル凡テノ證據ヲ全ク破毀シタル者ナリト主張セリ斯ノ如ク双方ノ議論極端ニ奔リテ互ニ相争フタルノ末反逆ノ證據ハ遂ニ立タスシテ却テ反亂教唆ノ證據ヲ多ク發見シタリ蓋シテ斯ル證據ニ依リテ人ヲ死刑ニ處スルハ一事ナリ公安ヲ維持スルノ方法ヲ立ツルハ則チ別事ナリ然レモ當時人皆國家危難ノ度ヲ誇張シ且ツ其ノ性質ヲ誤認シタルコト明瞭ナレバ人身保護律中止令繼行案ハ直ニ上下兩院ヲ通過シタリ反逆ノ嫌疑ヲ以テ公訴セラレタル許多ノ囚人ハ法廷ノ審問ヲ受ケタル後皆無罪トシテ放免セラレタリト雖モ獨リヘンリー・レッドヘッド、ヨークハ放免ノ外ニ洩レタリキ彼

ヨークノ陰謀ニ關スル審問

ハ當時二十二歳ノ若年ニシテ大ニ才幹アリ其ノ尙ホ幼少ナル時ヨリ慎重ヲ以テヨリハ寧ロ熱心ヲ以テ政治界ニ其ノ身ヲ投シタリ千七百九十四年四月ヨークハシエフ井ルドナルカツスルヒルニ集會ヲ開キ自ラ會衆ニ向テ下院ノ腐敗セルコト并ニ國會ヲ改革スルノ必要ナルコトヲ演說シタリシガ其言論激烈ニシテ且ツ煽動ノ性質ヲ有セリ其ノ後此集會ノ實況ヲ印行シテ之ヲ世ニ公ニシタリシガヨーク氏カ此出版ニ關係シタルコト此出版物ハ果シテ氏ノ演說ヲ精確ニ報告セルコトヲ證スルニ足ル者ナシ居ルコト未ダ久シカラスシテ氏ハ反逆ノ罪ヲ以テ拘捕セラレ爾後久シク牢獄ニ繫カレタルノ後檢察官ハ此反逆ノ公訴ヲ放棄シタリ然レモ千七百九十五年七月ニ至リ氏ハ遂ニ下院ヲ誹

謗シ并ニ人民ノ間ニ不平及ヒ騒亂ノ精神ヲ惹起セシメント密ニ企畫シタリトノ公訴ヲ受ケヨーク巡廻裁判所ニ於テ審問セラレタリ此審問ノ時ニ際シ氏ハ自己ノ辯護ノ爲メニ畢生ノ能力ヲ盡クシテ演說シテヤステースルコト氏ハ陪審官ニ向テヨーク氏ニ對スル公訴ノ趣旨ヲ述ズルニ方リ此公訴狀ニ掲グル氏ガ演說ノ言語(假ニ精確ニ報告セラレタルモノトスルハ)ハ他ノ時期及ビ他ノ國情ノ下ニ於テハ固ヨリ無罪ナルヘシト雖モ目下人心沸騰ノ時ニ際シ大集會ニ於テ斯ノ如キ演說ヲ爲スハ一國ノ公安ヲ妨害スル者ナリト云ヘリ陪審官モ亦ルコト氏ト同意見ヲ有セシテ以テ遂ニヨーク氏ヲ有罪ト審斷シタルバ氏ハ二百磅ノ罰金及ビドルチエスター獄ニ於テ二年間ノ禁錮ニ處

千七百九十五年
年ニ於ケル人
民ノ難澁及ヒ
一揆

セラレタリ
千七百九十五年ハ困弊激動不安及ビ騷擾ノ年ナリ一昔以
テ之ヲ評スレハ此時代ハ社會紊亂ノ時代ナリ即チ二年間
凶作ノ引繼キタルカ爲メ全國ノ工業稍ヤ衰頽ノ狀アリタ
ルニ尙ホ且ツ戦争ノ爲メ之レガ發達ヲ抑制シタルヲ以
テ人民ハ既ニ其ノ困弊ヲ感スルニ至レリ而シテ人民ノ職
業ヲ失フト食物ニ缺乏ヲ感スルトハ通例ノ如ク亦政治上
ノ不平ヲ發動セシメ殊ニ過クル三年間ノ事件ハ政府ト人
民トヲシテ益々廣ク隔絶セシムルノ原因トナレリ此ノ時
ニ至ルマテ自由權利ノ成長發達ハ甚々迅速ニシテ憲法上
許多ノ弊害ハ既ニ之ヲ矯正シ自由ノ思想ト自由ノ言論ト
ニ慣熟シタル人民ハ當時第一流ノ人即チチャタム、フオツ

クス、グレン、イ、及ビ若ヒツト等ノ諸氏ニ獎勵セラレテ各自ノ
自由權利ヲ全フセシカ爲メ代議ノ權利ヲ擴張セシコチ希
望シタリ然レハ近時政府ハ此等人民ノ勢力ニ應スルニ如
何ナル手段ヲ以テシタル乎曰ク出版者ノ罪ヲ公訴スルナ
リ曰ク政治上ノ言論ヲ犯罪トシテ罰スルナリ曰ク議院ノ
改革者ヲ反亂煽動及ビ謀反ノ罪アリトシテ處刑スルナリ
曰ク一般人民ノ自由ヲ抑制スルナリ此等ハ皆政府ガ人民
ニ對スルノ處分ナリ是ニ於テ平民心大ニ激昂シ遂ニ彼等
ガ諸種ノ雜感ハ外部ニ發シテ無職業者ノ一揆トナリ或ハ
議院ノ改革ヲ賛成スル所ノ騷然タル集會トナレリ是ヨリ
先キ倫敦通信協會ハ政府ニ對シ勝利ヲ得タルガ爲メ益々
壯膽トナリテ有害ノ舉動ヲ爲シタリシガ此等ノ舉動及ビ

當時ノ激騒ニ乗シテ起リタル許多ノ首魁ノ舉動ハ皆不平
 人民ヲ煽動スル者ニアラサルハナシ十月二十六日倫敦通
 信協會ハコペンヘイゲンハウスニ於テ一大集會ヲ開キマ
 リシガ同日ノ出席者ハ凡ツ十五萬人ナリト言ヘリ此ノ集
 會ニ於テ國民ニ告クルノ書ヲ評決シタリシガ其書中人心
 ナ攪亂スベキ許多ノ言アル中ニ吾人ハ生命ヲ有セリ而シ
 テ今ヤ國ノ危急ヲ救ハンカ爲メ人々各個ニ若クハ集合シ
 テ此生命ヲ放擲セント欲スト云ヘル一言アリタリト此言
 ニ次テ國王ニ諫告スルノ言アリシガ其趣旨ハ國會ヲ改革
 シ諸大臣ヲ免黜シテ一國ノ平和ヲ恢復スルコト甚々急務ナ
 リト云フニアリ其他人民負擔ノ租稅甚々重クシテ困弊ニ
 堪ヘサルコト並ニ普通選舉ト毎年改撰ノ國會ノ必要ナルコ

千七百九十五年十月二十九日
 人民國王ヲ攻撃ス

等モ亦此集會ニ於テ決議シタリ斯クノ如ク倫敦通信協會
 ハ種々ノ舉動ヲ爲シタリト雖モ其常ニ彼等ノ腦裏ニ往來
 スル所ノ目的ハ毎年改撰ノ國會ヲ開カントスルニ在リ左
 レハ彼等ノ言語ハ如何ニ激烈ナルモ此目的ヲ除キテ他ニ
 何等ノ目的ヲ明告スルコトヲ爲サス而シテ集會ハ毫モ騷擾
 ノ模様ナクシテ解散シタリ

國王自ラ國會ニ臨テ開場式ヲ行ハントスル頃ハ人民ノ激
 動既ニ其ノ最高度ニ達シタリキ十月二十九日國王ハウエ
 ストミンスターニ赴カンカ爲メ行列ヲ爲シテ公園及ビ諸
 所ノ市街ヲ通行シタルニ至ル所憤激セル人民ノ群集スル
 アリ此等ノ群民ハ通例ノ如ク忠實ナル號叫ヲ以テ王ヲ奉
 迎セシテ却テ嘆聲又ハ謾罵ノ言ヲ發シ中ニハ吾人ニ麵

包ヲ與ヘヨピツトモ要セス戰爭モ要セス饑饉モ之ヲ望マ
 スト頻ニ號叫シタル者アリ加之國王ノ馬車ニ向テ瓦石ヲ
 投スル者アリ且ツ明ニ空氣銃ヨリ放チタルカト思ハル、
 一ノ發射物ハ馬車ノ窓ヲ通シテ車中ニ入レリ蓋シ英國ノ
 領地廣シト雖レ當時國王ニ勝ルノ勇氣ヲ有スル者ハ一人
 モ之アラサルナリ即チ王ハ其ノ身ニ對スル此等ノ攻撃ヲ
 受ケテ毫モ周章狼狽スル所ナク國會ノ玉座ヨリ演說ヲ爲
 サンガタメ馬車ヲ驅リテウエストミンスターニ臨幸シタ
 リ既ニシテ國會ノ儀式終リテ國王ノシントジエームス宮
 殿ニ還幸セントスルニ方リ群民ハ再ヒ亂暴ヲ爲シテ今ハ
 馬車ノ玻璃板及ビ窓ヲ粉碎シ王ノ車ヲ下リタル後暴民等
 ハ馬車其ノ物ヲモ殆ト破壊シタリ其ノ後國王ハ別車ニ駕

國王ノ布告及
 ヒ國會ノ建白

千七百九十五
 年十月三十一
 日

シテシントジエームスヨリバツキンガム、ハウスニ赴カン
 トスル時再ヒ暴民ノ爲メニ取り圍マレタリシカ折ヨク休
 暇ヲ得タル或ル騎兵ノ此所ニ到着シタルヲ以テ纔ニ危難
 ヲ免ル、トヲ得タリキ
 英國各級ノ良民等ノ爲メニ難責セラレタル此ノ愧ツベキ
 暴行ハ政府ニ向テ尙ホ一層人民政治上ノ特權ヲ蠶食スル
 ノ機會ヲ與ヘタリ此等暴行ノ後間モナク上下兩院ハ相共
 ニ一致シテ國王ニ書ヲ上リ以テ近日ノ事件ノ甚々惡ムベ
 キ者タルヲ奏上シタリ是ニ於テ乎國王ハ直ニ二箇ノ布
 告ヲ發シタリシガ一ハ此等暴行ノ主謀者及ビ共謀者ヲ拘
 捕シタル者ニ向テ賞品ヲ賜與スルノ布告ニシテ他ノ一ハ
 國王ニ對スル攻撃ニ先チ倫敦府ノ近傍ニ於テ開カレタル

人民集會ノ實況ヲ示シ而シテ向後斯ル種類ノ集會ヲ妨ケ
 并ニ人民煽動ノ演說ヲ爲シ或ハ反逆的ノ文書ヲ配布スル
 ノ人ヲ捕拿スルトコトヲ與フベキ旨ヲ地方官及ビ凡ヘテ
 ノ長民ニ促カス所ノ布告ナリ此兩布告ノ發セラレタル後
 グレンウヰル公ハ其ノ布告ノ趣旨ニ基キテ反亂ノ舉動及
 ビ企計ニ對シ國王ノ身軀ヲ保護スルトニ關スル一議案ヲ
 上院ニ提出シタリ
 グレンウヰル公ノ議案ハ現行法律ノ主義ニ背戾スル所ノ
 新謀反律ヲ英國ニ行ハントスル者ナリ何故ニ公ハ此案ヲ
 提出シタルカト云フニ現行法律ノ作用ハ近時ノ國事犯審
 問ニ於テ政府ニ大ナル不満足ヲ與ヘタルニ因ルナリ公ノ
 議案ニ據レハ國王ヲ弑シ或ハ之ヲ傷ケ或ハ之ヲ抑制シ或

九月四日ノ謀
 反條例

ハ其方策又ハ評議ヲ變更セシメシカ爲メニ王ノ位ヲ廢シ
 或ハ之ニ向テ戰ヲ挑ム如キコトヲ企畫スルノ人并ニ出版筆
 記說教若クハ惡意アル教唆的ノ演說ニ依リテ斯ル企謀ヲ
 公告スルノ人ハ之ヲ謀反人トシテ罰スヘク又筆記出版說
 教若クハ演說ニ依テ人民ヲ煽動シ以テ國王政府及ビ憲法
 ヲ厭忌シ或ハ輕蔑セシムル所ノ者ハ何人ヲ問ハス之ヲ過
 失罪ノ大ナル者トシテ處刑シ再犯者ハ之ヲ流刑ニ處スベ
 シ而シテ此法律ハ國王ノ存生中ハ勿論國王崩御ノ後ニ開
 クベキ次期國會ノ終ニ至ルマテ引續キ實行スベキナリ
 此議案タル言論ノ自由ヲ蠶食スルノ甚シキ者タルコトハ直
 チニ覺知セラレタリ反對者ハ以爲ラク此ノ案ハ法律ニ依
 テ以テ人民ノ國會改革ヲ論議スルヲ禁止スルモラニシテ

爾後政府又ハ憲法上ノ最モ著大ナル弊害モ人民ノ爲メニ
 攻撃非難セラル、トナキニ至ルベシト要スルニ人民ガ政
 府又ハ憲法ニ關シテ論議スルコハ之ニ對シテ怨恨ト輕蔑
 心トヲ惹起サシムル者ナルカ故ニ法律ノ力ニ依テ人民ヲ
 沈黙セシムルコハ則チ此議案ノ趣旨ナリトス而シテ此議
 案ヲ贊成シテ述べタル他ノ議論中一トシテ其ノ惡ムヘキ
 條項ヲ寬和ナラシメントスルモノナクグレンツヰ非ル公ノ
 如キ大政治家スラ此議案ハ曾テ女皇エリサベス及ヒチヤ
 丁レス二世ノ在位中ニ議決セラレタル法令ヨリ其ノ精神
 ヲ移シ來リタルモノニシテ今日ニ之ヲ行フハ最モ適當ヲ
 得タルモノナリト斷言シタリロチエスタノ僧正ドクト
 ル、ホルスレトモ亦此議案ヲ贊成シテ曰ク如何ナル邦國ニ

於ケルモ人民ノ多數ハ只法律ニ服従スルノ義務アルノミ
 ニシテ其他法律ニ關シ何等ノ爲シ得ヘキコアルヲ知ラス
 ト氏ハ他日再ビ此憲法上ノ格言ヲ復述シタルコアリシガ
 其ノ胸中此言ノ美妙ナルコト深ク感シタルカ故ニヤ自ラ
 揚言シテ曰ク貴族諸君ヨ此格言ハ余ノ常ニ主張セント欲
 スル所ノモノナリ余ハ死ニ至ルマテ之ヲ主張スベシ余ハ
 斬首臺ノ刀刃ノ下ニ於テモ尙ホ之ヲ主張スベシト氏ハ此
 一言ハ世人ヲシテ一層議案ニ對シ厭忌ノ念ヲ惹キ起サシ
 メタリト雖也而カモ氏ノ熱心ニ贊成セル此議案ノ主義及
 ヒ精神ハ實ニ氏ガ述ヘザル趣旨ヲ措テ他ニ之アラサルナ
 リ
 爾後未ダ一週日ヲ經サル間ニ此議案ハ上院ヲ通過シテ之

日年十一月十三

十一月十日ノ
集會條例案

ニ異議ヲ唱ヘタル貴族ハ僅ニ七八ニ過キス更ニ下院ニ送付セラレタリ然ルニ其案ノ未ダ下院ニ到達セザルニ先チ同院ハ上院議決ノ案ニ等ク大ニ驚クベキ他ノ議案ノ討議最中ニテアリタリ十二月十日下院ニ於テ國王ノ布告ニ付討議スルニ際シピット氏ハ此ノ布告ノ精神ニ基キテ人民ノ激騷ナル集會ヲ防遏スルノ議案ヲ提出シタリ氏ハ國王ノ布告ト同一ノ道理ニ依リ近日人民ガ國會ノ開場式ニ際シ國王ニ對シテ暴行ヲ加ヘタルハ夫ノ激騷ナル集會ヲ開テ以テ人民ノ不平心ヲ攪動シタルニ原因セル者トナセリ左レハ氏ハ議場ニ發議シテ曰ク五十名以上ノ人集會シテ教會若クハ國政上ノ事ヲ變更スルノ請願又ハ建白ニ就テ協議シ或ハ某ノ艱苦ヲ除クトニ關シ論議セントスル時ハ

豫メ警察官ニ通知スベシ警察官此通知ヲ受ケタルハ其集會ニ於テ國王政府及ビ憲法ヲ怨惡シ又ハ輕視セシムルノ傾キアル發言或ハ議論ヲ制止センカ爲メニ自ラ之ニ臨監スベク且ツ警察官ハ斯ノ如キノ發言或ハ議論ヲ爲ス者ヲ拘捕スルノ權アルベシ若シ警察官ニ抗抵シテ其職務ノ執行ヲ妨クル者アルハ之ヲ大罪人トシテ死刑ニ處スヘシ又警察官ハ其集會ノ舉動ヲ穩カナラスト思考スルハ斷然之ヲ解散セシムルコトヲ得ベク其ノ之ヲ解散セシメントスルニ際シ會衆ノ爲メニ殺害セラレ、コアルハ之ニ向テ相當ノ賠償ヲ爲スベシト此ノ他ピット氏ハ討論ヲ目的トセル社團及ビ政治上ノ講談ヲ抑制センカ爲メニ講堂ノ設立ヲ允許シ并ニ之ヲ監督スルノ權ヲ警察官ニ附與ス

フオックス氏
ノ反對論

ルノ條項ヲ集會條例案中ニ含入スルヲ提議シタリ
 ビット氏ガ下院ニ於テ此方案ヲ發議シタル時フオックス
 氏ハ勃然色ヲ發シテ近日人民ガ國王ニ對シ暴行ヲ加ヘタ
 ルハ公開ノ集會即ハチ之レカ原因ナリト云フハ實ニ根
 據ナキノ口實ニ過キスト非難シ且ツ今日ニ於テ斯ノ如キ
 ノ方案ヲ行フヲ要スルノ理由一モ之アラサルヲ演述
 セリ氏ハ揚言シテ曰ク斯ル口實ヲ設ケテ嚴重ナル條例ヲ
 行ハンヨリハ寧ロ自由憲法ハ最早我々英人ニ適セスト直
 言セヨ今日ノ國勢ヲ觀察スルキハ自由憲法ハ汝等ニ適セ
 スト男子ノ勇ヲ以テ直言セヨ丁抹ノ元老議員等カ曾テ爲
 シタル如ク人民ノ自由ヲ蹂躪シテ專制ノ主義ヲ承認セヨ
 苟モ世ニ向テ汝等ハ自由ノ民ナリト公言シナガラ一方ニ

於テ吾人々類ノ理心ト感情トヲ欺ク如キ卑劣ノ處置ヲ爲
 スコ勿レト

フオックス氏ハ又此集會條例案ハ夫ノ免許條例ノ主義原
 則ヲ復生セシメタル者ナルヲ説明セリ即チ免許條例ハ
 政府ガ自ラ非ナリト認ムル所ノ言論ノ印行ヲ抑制スルヲ
 チ趣旨トシ此集會條例案ハ國事ニ關スル言論ノ自由ヲ箝
 制センヲ目的トセル者ナリ要スルニ此條例ハ言論ヲ自
 由ナラシメ并ニ法律ノ力ヲ犯罪人アルノ場合ニ於テ始メ
 テ之ヲ罰スルニ止ラシメスシテ百年以前ノ舊法ヲ再ヒ恢
 復シテ人ノ思想ヲ抑制シ苟モ官ノ允許ヲ得ルニアラズン
 バ如何ナル思想ト雖モ之ヲ公ニセシメサルモノナリフオ
 ックス氏ハ又老成政治家ノ見ヲ以テ論シテ曰ク吾人ハ他

千七百九十五年十一月二十七日

ノ邦國ニ於テ屢々革命ノ亂ヲ生シタルコトヲ見聞シタリ此等ノ革命ハ果シテ人民ノ自由言論ニ基因スル乎此等ノ革命ハ果シテ人民ノ自由集會ニ原因スル乎否ナ此等ノ革命ハ却テ言論集會ノ自由ヲサリシニ基因スルモナリ是ノ故ニ余ハ斷シテ言ハシ吾人若シ斯ノ如キ革命ノ危難ヲ脱セント欲セハ人民ヲシテ可及的彼ノ革命國ノ人民ト大ニ異ナルノ地位ニ立タシメサル可ラスト斯ノ如クフオツクス氏ハ議案ニ反對ヲ試ミタリト雖モ氏ノ説ヲ贊成シテ此案ヲ議場ニ容ルコトニ抗抵シタル者ハ僅ニ四十三人ニ過キス

此ノ集會條例案ハ次第ニ議事ノ順序ヲ經ル毎ニ其ノ主義ニ反對スルノ議論又新ニ生シタリ然レモ下院ノ委員會ニ

十一月十六日

於テ該案ノ細條ニ就テ討議セシトスルニ方リフオツクス、
 エルスキンズ、グレン、ラシブト、シ、ホワイ、ト、ブ、レ、ツ、ド、等ノ諸氏
 ナ始メ反對黨ノ議員ハ其ノ其ノ席ヲ起チテ下院ヨリ退キ
 タリ此時シユウダン氏ハ獨リ議場ニ留リタリシガ氏ノ言
 フ所ニ據レハ氏ハ決シテ議案ニ對シ修正説ヲ提出セシカ
 爲メニ留リタルニアラスシテ(何事ナレハ則チ議案ヲ全廢
 セサレハ決シテ満足スベカラサレハナリ)只此案ノ委員會
 ナ通過スル實現ヲ目撃セシガ爲メニ外ナラス尋テ該案ノ
 第三次會ニ於テ先キニ下院ヲ退キタル人々ハ再ヒ議席ニ
 歸リテ頻ニ反對ノ説ヲ主張シタリト雖モ該案ハ遂ニ大多
 數ヲ以テ下院ヲ通過シタリ

此間上院ヨリ下院ニ送付シタル夫ヲ謀反條例案モ亦烈

下院ニ於ケル
謀反條例案ノ
議事

シキ反對ヲ受ケタリシガ其ノ討論ノ激烈ナル双方互ヒニ
一般人民ノ激動ヲ増スノ傾キアル言語ヲ發スルニ至レリ
フオックス氏ハ曰ク若シ内閣諸公ニシテ國會ノ兩院ニ於
テ自ラ有スル所ノ賄賂ノ勢力ニ依頼シ且ツ國民大多數ノ
公明ナル感情ニ反對シテ此ノ案ヲ通過セシメ而シテ其ノ
嚴刻ナル條項ノ儘之ヲ實行スルノ決心ナラソカ人民ガ之
ニ服從スルコトニ關シ余ノ意見ヲ問フコトアラハ余ハ彼等ニ
向テ此條例ニ服從スルハ最早德義上ノ義務トシテ服從ス
ルニアラスシテ只一身ノ安全ヲ求ムルノ用意ニ過キスト
答ヘンノミト氏ハ此ノ痛切ナル說ヲ述ヘテ政府ニ助言シ
且ツシエリダングレト、ホワイトブレツト其ノ他熱心此議
案ニ反對スルノ人々ニ鼓舞セラレテ再三此說ヲ復述シ并

議案ノ可決及
ヒ議院外ノ反
對黨

ニ其ノ言ノ決シテ不當ニアラサルコトヲ證明シタリフオッ
クス氏ノ此恐嚇ニ反對シテ演說ヲ爲シタルハウ井ソドハ
ム氏ナリシガ氏ガ演說ノ要旨ハ内閣員ハ通例ノ時ニ於テ
又ハ通例ノ形情ニ際シテ行ハレタル法律ニ一層ノ嚴重ヲ
加ヘント決心セルモノナリト云フニアリ
上下兩院ニ於テ數回討論ノ後集會條例案及ヒ謀反條例案
共ニ可決セラレタリ然レモ其ノ討議ノ際下級多數ノ人民
ハ此兩案ノ實施ニ由リテ各自ノ自由ヲ妨害セラレシコトヲ
恐怖シ器々トシテ反對ノ議論ヲ唱ヘリ之ニ反シテ上級ノ
人民ハ概テ政府ヲ贊成シテ此等ノ議案及ヒ其他一切ノ強
壓策ヲ實行セシメンコトヲ勉メタリ彼等ハ共和政治ノ行ハ
ルハコトヲ恐ル、ノ極知ラス識ヲス憲法上ノ自由ニ關スル

永世不變ノ訓則ヲ尊重セザルニ至レバ即チ彼等ハ只人民ノ放縱ヨリ生スル危險ノミヲ見テ其祖先ノ辛苦經營シテ得タル所ノ特權ハ毫モ之ヲ保護スルコトニ注意セズ然レモ他ノ一方コハ又許多ノ名士アリテ恐レヌ忌マズ頻ニ民權説ヲ主張シ人民モ亦屢々示威運動ヲ爲シテ以テ此説ヲ贊成シタリ

民權黨ノ俱樂部

十一月十日民權黨俱樂部ハ一大集會ヲ開キタリ此集會ニハ該黨中第一等ノ貴族及ヒ紳士等多ク出席シタリシガ政府ノ爲メニ言論集會ノ權利ヲ蹂躪セラレザルニ先チ畢生ノ力ヲ盡クシテ夫ノ危險ナル方案ニ反對スルコトニ衆意一致シタルヲ以テ遂ニ國王ヲ攻撃スルハ該黨ノ大ニ嫌惡スル所タルコトヲ明告シ政府ガ國王ニ對スル攻撃ヲ防クコトヲ

口實トシテ出版言論ノ自由ト民害除去ノ爲メ國會ニ請願スルノ權利トヲ抑制スルノ議案ヲ發シタルコトヲ慨嘆シ并ニ人民ノ權利ヲ妨害スル都テノ方案ニ反對センガ爲メ直チニ集會ヲ開キ請願書ヲ政府ニ呈出スルコトヲ天下公衆ニ助言スルコト等數條ノ決議ヲ爲シタリ倫敦通信協會モ亦大ニ憤怒シテ國民ニ向ヒ一篇ノ陳告書ヲ公布シ其書中ニ於テ政府ノ爲メニ害セラレ及ヒ政治上ノ事情ニ通ゼザル多數人民ガ頻ニ過度放逸ノ行ヲ爲シタルハ近頃同協會ガ「ペンペーゲン」ハウスニ於テ集會ヲ開キタルニ原由スルモノナリトノ論告ヲ辯駁シ人民ガ國會改革ノ事ニ努力スルハ毫モ違法ノ處爲ト云フ可ラサルコトヲ主張シ并ニ内閣ハ更ニ吾人ノ自由ヲ蹂躪シテ人民結合ヲ零落ソ上ニ專制

リニアス氏ノ
小冊子

キ嚴重ナル方策ヲ行フコトヲ要スルハ人民ガ激騒ノ舉動ヲ
爲スニ因ルモシニシテ社會ヲ保護シ實ニ己ニ可ラサル者
サリト信スルコトヲ明告シタリトシテモ、
謀反條例ニ對スルノ議論ハ反對黨ガ政府及ビ其贊成者ニ
向テ復讐ヲ爲スノ好方便ナリトシテ頻ニ用ヒタル挿語ニ
依リテ大ニ鼓動セラレタリ當時英國政治ノ考察ト題スル
極端王權主義ノ小冊子世ニ公ニセラレタリシガ其ノ中ニ
一章ニ於テ國王ヲ憲法ノ古キ根幹ニ比シ上院及ビ下院ハ
只其ノ枝葉タルニ過キサルガ故ニ憲法其ノ物ニ向テ何等
ノ障礙ヲ與フルコトナクシテ之ヲ變代スルコトヲ得ルモノナ
リト云フノ一句アリ蓋シ此比喩的ノ論文モ他ノ時代ニ於
テ之ヲ發刊シタランニ只世人ノ一笑ヲ喚起スルニ過ギザ

リシナラジ最初此小冊子ノ著者ハ何人ナルカ更ニ之ヲ知
ルヲ得ザリシガ遂ニクロオン、エンド、アソコル協會トシテ
世ニ知ラレタル夫ノ共和黨及ビ平權黨ニ反對シテ自由及
ヒ財產ヲ保護スル社團ノ社長リニアス氏ノ著述ナルトテ
發見スルニ至リタリ此書ハ極メテ低價ヲ以テ出版セラレ
タルカ故ニリニアス氏ガ自ラ其ノ活動ノ精神タル許多ノ
社團ノ間ニ廣ク行ハレタリシガ其ノ一篇ノ趣旨ハ夫ノ強
壓ノ方策ヲ稍ヤ輕忽ニ贊成シタル者ノ頗ニ主張シタル趣
旨ト相符合スル所アリ是ニ於テ平政府ノ反對黨ハ大ニ憤
怒シテ此書ニ注目スルトトナレリ蓋シ彼等ハ曾テ屢々言
論抑壓ノ處爲ニ對シ政府ヲ攻撃非難シタルカ故ニ今亦小
冊子ノ著者リニアス氏ヲ罪スルトテ謀ルヨリハ寧ロ氏ノ

説ニ向テ答辯スルコト則チ彼等ガ平生ノ主義ニ適スモノト
 云フベシ然レモ此ニ反對者ノ決シテ失フ可ラサル一ノ好
 機會アリ元來著者リープス氏ハ大ニ世人ノ爲メニ厭惡セ
 ラレタルノミナラズ氏自ラ罪アルヲ以テ内閣大臣ト雖モ
 敢テ氏ノ説ヲ辯護スルコト能ハス左レハ少數ノ反對者ハ此
 機會ニ乘シ政府ヲ誘フテ言論上ノ犯罪ヲ寬待セシメント
 シタリ即チシエリダン氏ハ一般ノ著述者ヲ待寬スルノ善
 例ヲ施カンコトヲ欲セシヲ以テ敢テリープス氏ノ罪ヲ告發
 スルコトヲ希望セス只氏ヲ裁判廷ニ於テ叱責シ而シテ其著
 書ハ通常ノ弔罪手ヲシテニユレバレノスヤードニ於テ焚
 燒セシムベキコトヲ發言シタリ然レモ内閣諸大臣ハ斯ル特
 典ヲ與フルヨリハ寧ロ氏ノ罪ヲ告發セシコトヲ好ミシカバ

千七百九十七
 年五月十四日
 フオックス氏
 ノ謀反條例廢
 止ノ動議

大代言士ニ命シテ直ニ之ヲ告發セシメタリ尋テ氏ヲ審問
 スルニ當リ陪審官ハ氏が言論ノ趣旨ヲ非難シタルニ係ハ
 ラス遂ニ著者ヲ無罪ナリト審斷シタリ
 千七百九十七年フオックス氏ハ謀反條例廢止ノ動議ヲ起
 シタリシガ其ノ演説タル氏が頗ル政治上ノ才智ニ富メル
 コトヲ表明スル者ナリ氏が議場ニ於テ述ベタル感覺ノ其後
 ニ至リ眞理ニ協ヘルモノナリトノ確認ヲ得タル者甚ク鮮
 カラス氏ハ曰ク言論ハ公ケニ之ヲ演述スル時ハ無罪且ツ
 無害ナルモノナリ苟モ然ラスシテ其ノ言論ノ國家ニ危害
 チ與フルコアルハ唯政府ガ著述者又ハ演説者ヲ刻遇スル
 ガ爲メニ人民ヲシテ秘密ノ間ニ各自ノ思想ヲ交通セシム
 ルコトヲ要スルノ時ノミト又氏ハ人民ノ集會ニ對スル制限

ニ關シ揚言シテ曰ク人民ニ向テ汝等ハ賞讃ノ權利歡喜ノ
 權利及ビ各自ノ幸福ヲ祝セシガ爲メニ集會スルノ權利ヲ
 有スベシ然レモ政府ヲ非難スルノ權利各自ノ不幸ヲ痛哭
 スルノ權利及ビ此不幸ヲ救濟スルコトヲ勸告スルノ權利ハ
 之ヲ有セスト告知スルハ何等ノ戯ソヤト又曰ク自由ハ秩
 序ナリ自由ハ勢力ナリト此言語ハ將來英國憲法上ノ短語
 トシテ使用セラルベキモノニシテ實ニ千古ノ金言ト云フ
 ベシ然レモ當時氏ノ動議ハ僅ニ五十二人ノ賛成者ヲ得
 ルノミ

明治十五年九月三十日版權免許
 明治廿一年九月十八日印
 明治廿一年九月廿四日出

定價三十錢

著者兼發行者

神奈川縣平民
 島田三郎

同

兵庫縣士族
 乘竹孝太郎

印刷者

山口縣平民
 東京神田區北神保町七番地
 吉岡盛太郎

發賣元

東京神田區橋區三十間堀壹丁目
 貳番地大岡育造方
 興論社

NE 6W-54

民國廿一年八月廿三日
國民政府
財政部
稅務司
...

...